明治四十年十一月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百十六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百拾六號目次

大日本婦人衛生會

十二月例會通知

來る十二月七日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て納會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一演題未定　醫學士　石原喜久太郎君

一身體及び其保護（續）　ドクトル　富士川游君

明治四十年十一月

私立大日本婦人衛生會

會告

本會は今回振替貯金に加入致し候に就ては會費拂込みの節は何處の郵便局にても送金は總て無料にて取扱ひ申候本會の振替貯金口座番號は一〇六〇〇番に付右番號御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄內へ送金高拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名(即ち本會)等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直に本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被成下度此段會員諸姉に稟告致候也

○九月發行の本誌には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ひ被下度候

明治四十年十一月二十日

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改良育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相發て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を怠るかざるものゝ如くまことに慨しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一同集合を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すにあらんとす茲に本會旨趣の梗槪を敍べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續を末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認めたる際は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨を本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推[illegible]員を置き其中より總裁一名を推じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は本會に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編纂出版、第三應務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二期に會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衞生上の講談演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講話演說者を傍聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講話演說者は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て本會の收支決算並に庶務の槪要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ケ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出[illegible]後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし支會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することなく支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を設くることを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に限り送付すべきを以て其費用を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きて[illegible]同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付す●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは寄贈物品[illegible]ある時は本會々長の名を以て謝狀を附し寄贈者の姓名及[illegible]記錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵劵にて納むるものは受領證を[illegible]として別に返信料を添へらるべし（郵劵送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出し[illegible]●第卅四條　會員中若し本會の妨害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し[illegible]くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衞生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三絲子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多稔子
仝　松平芳子
仝　三浦教子

評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人　南部段子
仝　中濱芳子

評議員　山口貞子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸道子
仝　三宅藤子
仝　宮本榮子
仝　宮下吟子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川閑士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●[illegible]盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
赤十字社內科醫　●岩井鮎造君
醫學士　石原久君
醫學士　●野瀬雄一君
醫學士　石原久太郎君
貴族院議員　●濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　秋原淵四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　●長谷川一經君
小兒科　●小原剛之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
歩兵中佐　●竹內文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　●渡邊房吉君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅治君
醫學士　●樫田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學士　●河野衞君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高山耕安君
[illegible]院長　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學博士　高橋貞所君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
二等軍醫正　●星野葆光君
醫學士　●宮本俶君
三等軍醫正　●橫井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部甕男君

藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黒田亥通君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　●村松紙三君
醫學博士　●服川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　山川春二君
衛生試驗所技手　●丸山与四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲唖學校長　●小西信八君
廣島　●小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　●布施正頭君
南滿洲鐵道總裁　●後藤新平君
元帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺山聖作君
醫學士　●寺田織尼君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　●富士川游君
高崎醫會長　土谷余次君
産科婦人科　水原漸君
ドクトル　●久保田誠磨君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田央君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山雅六君
醫學博士　●晋晏勝剛君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君

ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　●[illegible]順次郎君
醫學博士　●[illegible]保三郎君
醫學士　●佐藤得齋君
醫學博士　●櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵鏡次君
醫學士　●北村[illegible]道君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓則君
醫學士　近川隆君
醫學博士　●木村德衞君
醫學博士　●森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野路君
醫學博士　●呉秀三君
ミス　●リツデル
ミス　●ヒユース
ミセツス　●コーツ
ドクトル　●菊池稲一君
醫學士　●楢本左武郎君
醫學士　●鳥居雅洋君
ドクトル　●土田卯三郎君
ドクトル　●佐藤延雄君
ドクトル　●西山信光君
醫學士　●澤寛制君



身體及び其保護(續)

ドクトル　富士川　游君講演

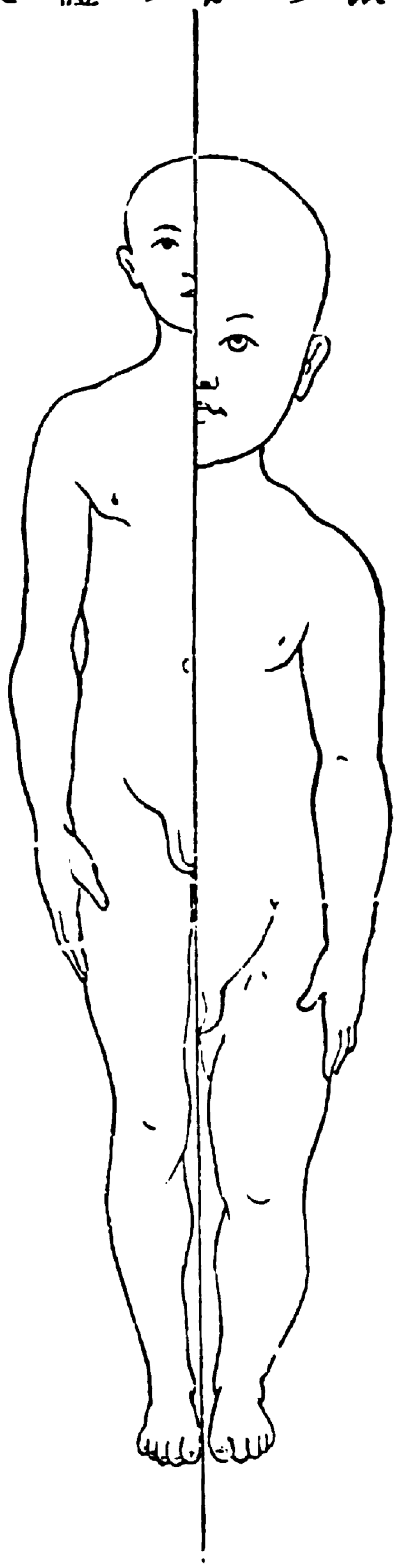
私の題は身體及び其保護と致して置きましたが、實は此前に病氣の御話を長く引續いて致しましたがそれは身體の根本に遡りまして身體の一番の根本である所の細胞と云ふものを目當として、さうして病氣の出來る工合から、それをどう云ふ風にして豫防したら宜しいか、どう云ふ風に療治をすれば宜しいかと云ふことを御話しましたから、今度は身體のことをスッカリ纏めまして御話をした方が、私の是まで長く申述べましたことが能く御解りにならうと考へまして、それて身體及び其保護と題を掲げて御話をするのてありますが、其お話は矢張病氣の話てありまして、さうしてそれを豫防して自分の健康を保つて行かうと云ふ、つまり論旨は同じことに歸するのてあります、これまては身體の根本に付て御話したのてありますけれども、今度からは出來上がつた身體に付て御話をするのて、たゞ其方面が違ひますばかりて詰り同じ事を繰返すことになります、それて、人の身體と云ふものは、古くからこの世界に出來て居つたのてありますけれども、近頃まて人間の身體のことは能く研究がされて居なかつた、人間と云ふものはどうして出來たものてあるか、人間と云ふものはどんなものてあるかと云ふと、數千年も前から、御承知の通り、印度では御釋迦樣前後、歐羅巴ては隨分古く、日本ても餘程古くから、隨分色々の人が考へたのてあります、死ぬると云ふことが怖いから、死んだ人間はどうなるだらうといふこ

とにも、色々の考へを起して、人間の身體の研究をして居りますけれども、學問が足らないので、その研究には想像が多かつた、今日のやうな學問の仕方でありますれば、能く解つたのでありますけれども學問の仕方の惡い爲に身體の委細の譯が解らなかつたのであります、近頃になつてから人間と云ふものは此世界に在る種々の生物と矢張同じ系統のものであると云ふことが解つてから初めて人間の身體が能く解つたのであります、それて人間の身體が能く解りましたから、どう云ふ風にすれば病氣が出來る、どう云ふ風にすれば健康になるか、どう云ふ風にすれば長命が出來るか、どう云ふ風にすれば死ぬると云ふことが、今日の所で能く解つたと云つても宜しいのてあります。

それて出來上りました人間の身體のことを詳しく御話ししますると隨分長くなります、例へば人間の種類と云ふものが澤山ある、たとへば色の白い人種、色の黃い人種、色の黑い人種と云ふやうに種々の人種がある、殊に我日本のやうな島國は諸方から人間が流れて來まして種々の人種が混つて居ります、一寸例を擧げて見ると、是は近頃獨逸の人が集めた日本の婦人の顏でありますが（此時寫眞を示す）此顏を見まするど、是は馬來人種に屬する顏であります、それから此邊に來まするど是は支那人種である、此方を見ると顏の形が歐羅巴の人種が少しづゝ這入つて來て、此顏を見るとマルて歐羅巴人種てありますて來て、此顏を見るとマルて歐羅巴人種てあります是は總て日本の婦人の顏でありますけれども、此中て順序を追ふて寫眞を並べて見ますと、馬來人種から漸々支那人種になつて來て、それから歐羅巴人種が交つて居る、唯人種の關係から言ひましても我日本國は、此寫眞て見ました通り色々の人種が這入つて居る、此顏ては能く解りませぬけれども、男の寫眞を集めて見ますと云ふと、東北の方に行くとアイノの人種の混つたのが澤山居ります、我日本は狹い國てありますけれども斯う云ふ風に少くとも四種か五種の人種が這入つて居ります、其方を詳しく調べ

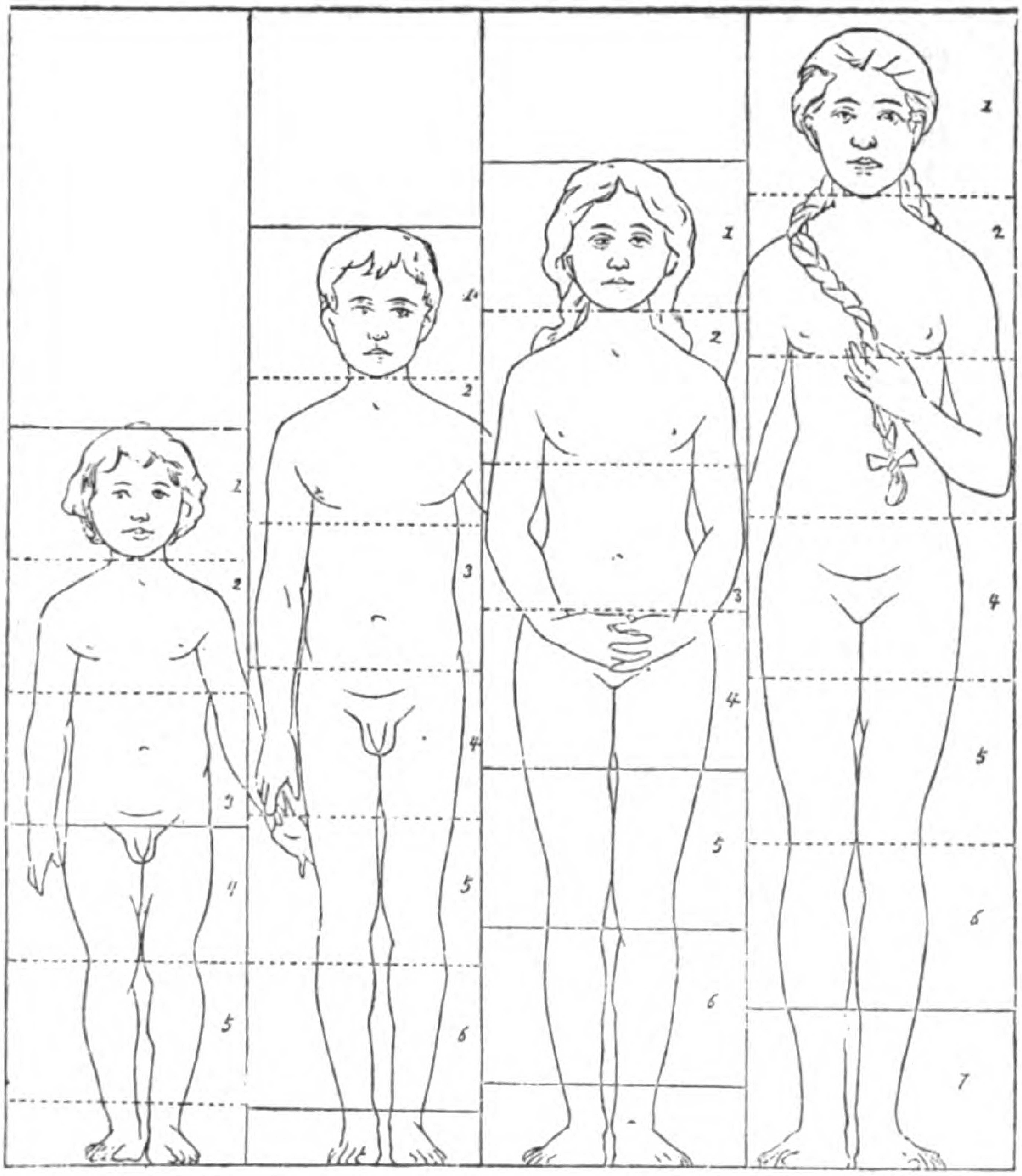
ますと身體の御話するにも長くなりますから、さう云ふことは一切致しませぬて、これから出來上つた身體と病氣の關係から御話したいと思ふのであります。

それて人間の身體は御承知の如く總ての動物の中ては、一番能く出來上つて居るものであります、下等の動物から漸々立派になつて今日吾々のやうな立派な人間が出來て來たのでありますが、吾々の身體は總ての生物の中て一番釣合が良く出來て居る、しかるに、其釣合が惡く出來て居る場合、或は他の關係から惡くする場合それ等の色々の場合から病氣になるのてありますが今日は先づ人間の身體の根本から御話して行かうと思ひます、人間の一番の根本は骨てありまして、これに筋肉が付いて居ります、其骨からしてチョッと御話して見やうと思ひます。



人間の外部から見た所の、身長と云ふのは骨て極まるのてありますが、すべて人體の發育と云ふものは一定の極りがありまして、姙娠中小兒が胎內に居りますとき、二箇月目には頭の大きさと身體の大きさと同じことてあります、詰り頭が半分て身體が半分てあります、さうして十箇月目に生れました場合には頭は身體の四分の一になるのてあります、是が漸々身體の方が發育して行きまして二十五歲になつて人間の發育が殆ど止まるのてありますが、其時には總ての身體の八分の一になるのてす、此處にチョッと圖が畫いてあります、(圖を示す)左の方は二十五

歳になつた大人の身體の寸を取つたのであります、又右の方のは生れたての小兒の寸を取りましたのであります、生れたての小兒であると、臍の所が身體の殆ど中央になりますさうして頭が四分の一、頭を除くの外殘り四分の三ある、大人になると臍の所は中央よりもズツと上になる、頭は八分の一になりまして殘りが八分の七であります、それて比例



を取つて見ますると、生れたてから二十五歳になるまではズン〳〵延びますけれども、二十五歳になると頭が二倍、身體が三倍、手と足が五倍と云ふやうに漸々延びる、頭だけに付て言ひますと、生れたては顏の部分は僅かであります、胎兒なれば殆ど頭だけてありますけれども、生れてから漸々發育するに從つて

頭が小さくなつて顏が大きくなります、それで大人と生れたての小兒を比べて見ますると、其顏の大きいと小さいとが非常に著しき差があります、此表は假りに書きましたのでありますけれども線を取つて此方へ引延ばしたのであります、(圖を示す)前申上げた通り小兒では頭が身體の四分の一、大人では八分ノ一、それは漸々歳を經るに從つて階級があります、二歳が二分の一、六歳が五分の一、十五歳が七分の一、二十五歳が八分の一、大概同じやうに行きます、寸は西洋の調に依ると、男が一八〇仙米突女が一七〇仙米突、目方が男が七〇グラムか八〇グラム、女が六〇グラムか七〇グラム、人間の生れたてから二十五歳の人間になるまでの發育の度合は一寸是だけの平均があります、日本の人は是よりもモ少し少ないけれども、大抵差がそれだけになります、其主なるものは骨でありますが、其骨がさう云ふ發育をして來るのであります、併し此發育は、通常唯發育すると云ひますけれども、其發育するには時期がありまして、此時期は能く調べが付いて居ります是は御承知でもありませうけれども念のために申し上げます。

哺乳期、是は通常生後一年であります、其次に第一充實期、此充實期と云ふは、一年から四年までの間て、小兒の身體が横にまる味が付く時代であります之を充實期と云ふのであります、それから其次には第一伸長期、と云ふものがあります、それが五年から七年までの間で、身體の丸味が付いて發育するより丈が延びて發育する、それから又第二充實期と云ふて八年から十年まで、身體が横に丸味が付く、それから又第二伸長期になつて、身體が縦に伸びる、凡そ十一年から十五年までの間であります、それから成熟期で、十六年から十七年になれば段々成熟して來るのであります、それで生れたてから十七年までに詰り充實期が二度ありますから、四年までは身體が肥つたり、五年から七年までは身體が縦に伸びる、七年から十年まで横に肥える、それから十一年

から十五年までは縦に伸びる、それから十六年にして身體がスツカリ出來る、其發育の間を七年までを是を通常第一小兒期、又成熟までを第二小兒期といふ、是は小兒の成長であります、是は澤山の數に付て調べた結果でありまして、一人々々に付て少しの差はありませうけれども、大體はこれに近ひ所まで來て居ります、それで第一小兒期第二小兒期と云ふやうに生れてから七歲までの間は人間の個性、どの人にも〳〵それ〳〵特有な性質があります、個性の下拵を發育せしめて居る、第二小兒期と云ふときに發育するのは男と女との身體を分ける、之を兩性期、此第二小兒期の間は男若くは女が特別の性情を發育爲さるので、其間を即ち兩性期と云ふのであります。

大概人間の身體の骨が發育を致しまするのはさう云ふ風になつて居るのでありますが、其骨が唯今申した發育を遂げます間に斯う云ふ風に第一小兒期と第二小兒期と發育を遂げます時分に其發育の妨げがあれば病氣になります、骨の發育はまだ小兒が母の身體の內に居る自分でありますが、初めに軟かい骨が出來てそれが漸々硬くなる、其硬くなるのが全然終りますのは四十五歲位までかゝります、けれども胎兒にズツと骨の形が出來まして生れてからそれが漸々硬くなつて四十五歲位までの間に其骨が硬くなることの出來ませぬと云ふと、それが佝僂のやうな病氣になるのであります。

それから骨を動かすのは筋肉の關係を以て骨の形の工合の惡くなる場合があります、是は極く著しいのはまだ骨が軟かい時分に筋肉を非常に使ふ仕事をする、例へば八歲九歲乃至十歲位の女の子が紡績會社の職工が何かをして一日立つて居る爲に足の筋肉を非常に使ひますると足の底がズツと平たくなつて扁平足と云ふものを拵へる、職工の年齡に制限がない爲にまだ骨の十分硬くならない人間を過度の勞働をさせます爲に足の底が扁平足と云ふものになるのです、それから今度に膝頭が身體の重みの爲に兩方

へ開いて外飜脚內飜脚となつて仕舞ひます、それは骨がまだ能く出來ない場合に、それを非常に使ふその爲に出來るのであります。

それから各國共に色々な習慣がありまして發育を妨ける、我邦ではありませぬけれども是は歐羅巴十八世紀頃は御承知の通り衞生の進步しない爲は洋服の下に不衞生的なコルセットを付る時代があります、それは非常に胸の骨を傷めるのであります、さうしてこれを用ひる婦人の腹が瓢箪のやうになつて仕舞ふ、それからモウ一つは惡い習慣の著しいのは、御承知の支那人の足であります、支那婦人の足の骨を取つて見ると彎曲して居ります、それは足を小さくする爲に小さい靴を穿つ爲であります。

其次には我邦に惡い習慣があります、それは小供の胸を占める帶であります、大學に永く居りましたベルツと云ふ先生が申しますには、帶を占める爲め小兒の胸に痕がある、これを帶痕溝と云ふので、是は肋の部に恰度溝のやうになつて居ります、これは悉く帶の痕とも思はれませぬが、しかし帶を堅く占める爲に胸の骨の發育を害するといふのは事實であります。

それから人間の身體は他の動物と違ひまして立て步きます、人間の立つて步るく爲に脊骨が曲らなければならぬのであります、其脊骨がチッとも曲らないと步くには大層都合が惡い、其脊骨の曲ると云ふことは又胎內に在る時に既に多少脊椎が曲つて居るが其曲つて居る脊椎が生れてから漸々曲つて來るのであります、此處にあるのは母の胎內に在る時分の小兒の脊骨でありますけれども御覽の通り多少曲つて居るのであります（圖を示す）是が曲りませぬと步くに工合が惡いから必要上曲るのでありますが、其曲り方が尋常でないと、病氣になる、又此曲り方の著しいのは學校の生徒の脊椎であります、小學校て以て小供を不良の机に坐らせて居る爲に脊骨が非常に曲る、或は光線の來工合、主に其關係を以て前後に曲るべき脊椎が前後に曲らないで横に身體が曲

る、是は主に學校の工合の悪い爲めてあります、此病氣は小學校が壓制でやると云ふことになつてから著しく脊椎側彎と云ふ病氣が多くなつたのてあります、是は殊に筋肉などの關係から脊椎側彎になるのてす、病氣て佝僂になるのは是は別てありますが其保護の工合の悪い爲に出來るのてあります。

只今御話したやうに、人の外部から御話すると骨が一番先きに出て來ます、其骨が胎内て以て軟かいのが生れてから漸々硬くなりまして四十五歳になると全然硬くなるのてありますが、其間に骨の病氣に罹りませぬ外に外部の關係からして、例へば筋肉を無暗に使ふ、或は勞働が過ぎると云ふやうな場合て以て、其保護の悪い爲に今御話したやうに色々の病氣が起るのてあります、それて此骨と申しまするものを保護致しますのは今御話しただけて大體其筋道はお分かりになつたことゝ存じます、即ち營養、小兒の時に與へまする牛乳或は其他滋養分の中に石灰分の餘り少ない――牛乳には澤山あるから宜しいが、牛乳以外の、例へば片栗粉で養ふとか或は日本の米を食はすとか云ふやうなもので養育するときは、營養分の中に骨を養ふものが足りないといふことになる、それから小兒の時分に早く立たすとか、早く勞働を爲せるとか、或は悪い形式習慣の爲め種々な害を防がなければならぬのであります。

叢談

活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

（八）活ける家の食堂

西洋の一詩人は『誰か飲食せずして生活するを得んや』と絶叫したことがありましたが、實際飲食の問題は老幼男女の共に心を碎くところて、よしや「人類と飲食のみにて活くるものにはあらず」としても、此

肉體を備へて居る以上は、飲食によつて活動の源をつくり、之を以て一旦消費した體力を補はねばならぬのであります。譬へいぶせき賤が家でも見る目映き大厦でも、食堂が一家活動の發源點であり家族親和の中心となるのも寔に然るべきとであります。

人體と云ふ我が活ける家の中にも亦た食堂がなければならぬ。此食堂は胃及び十二指腸と云ふ庖厨に續いた、幅凡そ一寸、長さ約二丈五尺に餘る部屋で此細く長い部屋は活る家の二階である腹部の中にあつて、幾重にも迂廻曲折て居ります。之が俗に云ふ

百尋、醫學上で小腸

と云ふ部分で、始めの八尺程は死後解剖して見ると何時も空虛であると云ふことから

空腸

と稱せられて居りますが、昔醫學の未だ進歩しない時代には、此空腸の中に恐らくは人の魂が居つて、死後魂が抜去たから空虛であるのであらうとの惑を抱たものもありました、空腸を除いた後の部分が

廻腸

と稱せられるもので、此空腸と廻腸との内面からも亦絶へず消化液を分泌して、胃及び十二指腸で消化し終れなかつた殘物を消化するものであります。此の如く消化し終つた食物が即ち

調理し上つた料理

て、此料理は小腸の壁に幾百萬となく立ち並んで、今や遲しと待ち構へて居る。

絨毛

から味はれる者で、其有様は恰も乾燥した海綿が水を吸ひ込み、吸ひ取り紙が黒汁を吸ひ取るのとさながらであります。故に之を

腸の吸收作用

と云ひ、吸收された食物は漸次血液の中に入り、茲に生命の泉として身體各部に運搬され、各々その處に於て生活材料として用ひられるのであります。言を換へて云へば腸の絨毛から吸收された食物は、即ち我々の身體になるもので、之を

食物の同化作用

と云ふのであります。昔しカナと云ふ處に婚姻式がありました時、宴未だ半ばにして酒が飲み終れて困つたことがありましたが、席上に居つたクリストと云ふ人は速座に水を酒に變化らせたと云ふことであります。此物語りの眞僞は偖て置き、我々の飲食した米や麥や肉や牛乳が、見たり聞いたり運動したりする人體組織に變化するのは、水を酒に變じたよりは遙に不思議なことであります、此の如く飲食物が身體組織に變化するものとすれば、健康活潑なる身體を造るためには

飲食物の品質に注意

すべきは云ふ迄も無きことで、粗食惡食する者の身體が其飲食物を撰擇する者の身體に比し、健康、勢力、組織等の點に於て遙に及ばぬ處のあるのは誠に無理ならぬことであります。然しながら如何に良好な飲食とは云ひ之を過量に食するのは、粗食惡食するよりも更に害のあるもので、腸は之がために充滿し、徒らに勞力するが故に、絨毛から吸收される量が少く、從て身體組織に同化する分量も僅かで、

要するに食物の損失のみならず、身體の勢力を徒費することも多いのであります。滋養分に富んだ不消化物よりは滋養分に乏しい消化物の方が、衞生上貴いのも全く同じ理由であつて、腸から吸收されなければ如何なる滋養品も何等の價が無いのであります。　慢性腸胃加答兒に罹つて居る人を御覽なさい、牛乳よ鷄卵よ「ソップ」よと食物の撰擇に心を碎くに拘らず、胃腸は之を消化せず、絨毛は之を吸收せぬので、胃腸の健康な粗食家に比し常に痩せ衰へて、蒼然たる顏色をして居るではありませぬか。

食事が濟めば食卓を取り片付け、殘物の中、食べられる物は殘し、他は悉く捨つべきであります。これは家族の後で食べる下女下男の仕事でありますが、我が活ける家にも斯る役目をする部分があります。　小腸に續いて居る。

大腸

が即ち之れて、大腸の壁にも亦多少の絨毛があつて、小腸で吸收され終らなかつた殘物中の食物を吸收し、最後の殘物は

直腸

と云ふ處を經て肛門から排泄し去るのであります。即ち此處が活ける家の厠とも云ふべき所であります。活ける家の吸收作用が極めて必要であるが如く、其排泄作用も亦頗る有用なもので、吸收作用の善惡が胃腸の病氣に關係するやうに、排泄作用の良不良も種々の原因によつて起り、種々の結果を來すものであります。排泄作用の緩漫な狀態を

便秘

と云ひ、殊に運動の不足勝ちて坐居坐食する人に多い、男女の點から云へば婦人に多く、職業の點から云へば坐職の人に多い。便秘は必ずしも病氣と云ふ程では無いが、病氣に等しい狀態を來すもので、腸の中に排泄物が欝滯すれば全身の調和や血液循環の關係が亂れ、又排泄物が分解て種々の有毒物を生じ、此有毒物が吸收されて全身に廻るが故に、頭は重く、氣は塞ぎ、何事を見聞きしても感興が湧かず、食慾は去り、記憶は減じ、全身に倦惰の感を覺ふる樣になります。故にお互は毎日適度に運動して腸の排泄作用を輔けねばなりませず。又二三日も便秘すれば其原因を探りて之を除くやうにしなければなりません。何れ他日機會を得て便秘の療法を述ぶることに致しませう。全く排泄の無くなつた狀態を

腸の閉塞症

と云ひ、極めて危險な病氣であつて、年々之が爲めに貴重な生命を失ふものは決して少くはありません。其原因には色々あるが內科の療法は多くは効なきものであるから、是非共有名な外科醫を訪ふて開腹手術を受けなければなりません。小腸及び大腸はたとへば長い護謨管が幾重にも折れ重なつて居る樣なもので、其間には

腸間膜

と云ふ膜が張つて、腸の各部を何れも一定た位地に

保つて居るものであります。一見すれば腸と云ふものは只埒も無く不規則に迂廻曲折居る樣ではありますが、苟も活ける家の食堂とも云ふべき所に、ソンナことのあらう理由がありません。然しながら種々の機會で、

腸が捻轉て腸管が塞がるとか
腸の上部が其下部へ、刀が鞘へはまる樣に
はまり込んで腸管を狹くするとか

云ふことがあつて、排泄物の通路が全く杜絶されれば、堰き止められた水が水上に向つて逆流する樣に、排泄物も亦た腸から胃、胃から食道、食道から口と云ふ順に逆戻りして、遂に口から糞便を吐き出す樣になります。これを醫學上で

吐糞症

と云ひ、極めて危險な病ひであつて、外科手術で腹を開いて治療さなければ到底死を免れぬのであります。近來外科の學問は非常に進歩發達したので、古來「聖い所であるから手をつけてはならぬ」と云はれた頭の中でも腹の中でも、何の氣遣ひも無く之を切り開くことが出來る樣になりました。殊に私共の最も興味を以て研究して居るのは

開腹手術

であります。開腹手術と云へば讀んで字の如く腹を切り開いて、胃の病氣なり、腸の病氣なり、若くは子宮の病氣なりを切り取つて仕舞ふので、素人はこれを呼んで

腹をたち割る療治

と云ひますが、斷ち割ると云ふては餘りに荒療治の樣にきこへて宜しくない。

嘗て下腹の中に大きな瘤が出來たと云つて驚いて外科醫を訪ふた一婦人がありました、醫者は之を診察し終つて「これは卵巣から嚢腫と云ふ腫瘍が出來たのであるから、腹を切り開いて療治をせねばならぬ」と云へば、患者に附き添ふて來た堅氣のお親父さん、驚くまいことかシゲ〳〵と醫者の顏を見上げてこう云ふたそうな「先生御冗談仰つては困ります、腹

を切れば昔から死ぬものと定まつて居ります」と、然しながら今日の醫學ては

　腹を切つても決して死ぬ樣な事はない

と保證することが出來る。患者たるものよろしく安心をなさつてよろしい。

　赤痢も腸窒扶斯も虎列剌も

凡て身體榮養の本部たる腸の病氣であつて、其消化、吸收、同化作用等が皆妨げられるがため、全身の衰弱を來すことが甚しい

　腸の中へ蛔蟲や縧蟲などが涌いた時

にも、攝取した營養品が是等の蟲から食はれて仕舞つて、腸から吸收される榮養分が少くなるから、

寄生蟲を宿して居る主人の衰弱は甚しくなる、

故に蟲が居りはしまいかと思はれる時には、患者の大便を顯微鏡てしらべ、果して其中に蟲の卵があるか何うかを見極めて早速驅蟲療法を施さなければなりません。即ち醫學上ては排泄物を檢査するのも亦た一個の重要な診斷法てあります、が世間ては未だこれを知らぬ者がある。私が大學に居つた頃其外來診察室て左の樣な面白い事實に遭遇したことがあります。

チヨン髷と云ふ堅氣の記章を頭にかざした質朴な一老人、見れば何處となく血の氣の乏しい樣な顏色、『腸に蟲が居はしまいかと思はれますから、明日大便を持つてお出なさい、能く調べて上げますから』と云つた三浦謹之助博士の顏を、須臾が程は孔のあく樣に無言の儘て眺めて居つたが、やがてカッパと土間へひれ伏し『コレは恐れ入りましたお言葉です、日本一のお醫者サンのところへ何うして私がソンナ不淨の物を持つてあがられませう』と

泥の中から蓮も咲く、人の中から聖人も出る、不淨の物を調べた結果强健活潑なる身體をつくり出すことが出來るのてあります。

衞生生活の一日（承前）

東京醫科大學　A、B、生君

第二十四　衣服及其附屬品の色彩は如何に注意すべきか

衣服と其附屬品の事を述べましたから、其序として是等の物の色に關して少し述べましやう。色の事も矢張多少は衞生に關係して居るのであります。夫れ、に就いては少し枝葉に走り過ぎる樣では有りますが先づ

（其一）色とは何ぞや　と云ふ事から定めて行きましやう。日本の人殊に敎育を受けて居ない人の間に用ゐられて居る色の名稱は甚だ僅少でありまして、田舍の人等ては、色の名は白と黑との外には普通用ふるのは青と赤と黄位て、如何なる色でも此三つの名の中に含めて仕舞ふ。赤と云へば紅色も、緋色も、茶色も、桃色も、水桃色も、紫紅色も皆含んで居り、青と云へば綠も、藍も、水色も、藤色も皆含んで居る樣な有樣であります。然るに又一方繪具や染料の方を見れば、色の名は實に數へ盡されない程澤山あります。そこで今秩序を立てゝ色の種類を別かちますと次の七色になります。即ち紅色、橙色、黄色、綠色、青色、藍色、紫色であります。之れは太陽の光線をプリズムに照らして得たる七色を順序のまゝ記したのであります。勿論明に此七色が別々に成つて居る譯ては無く順次に其移行の色が有りますから、其色を各種々の名稱を附してあるのでありまず。又其各色の濃淡に由つても、種々の名が附いてあるので、紅の淡いのを桃色と名づけ、黄色の濃いのを褐色と名づくるが如き皆それてあります。抑も色と云ふものは如何にして生ずるものかと申しますと、これは皆光線に由つて生ずるものてありまして、太陽の光線は前申した通り紅橙黄綠青藍紫の七色から出來て居るが、此光線が物體に中つた時に或る物體は此光線を全く吸收し或る物體は此光線を全く反射し、或る物體は其光線の一部分を吸收して他

部を反射するのであります。そして其全く吸收した物體は黑色を呈し、全く反射した物體は白色を呈し、一部分を反射した物は其反射した色を呈して居るのであります。即ち靑色の物體は太陽の光線をうけて靑のみを反射し他の色は凡て吸收したのであります。而して普通學問上では色と名づくるのは前記の七色等を云ふので、白と黑とを色とは名づけないので有ります。

(其二)白衣と黑衣　前申しました通り黑色は太陽の光線を全く吸收したる物で、白色とは之れを悉く反射したる物でありますから、衣服の上に於ても黑い衣服は光を吸收する事が多いから暖くして、白い衣服は光を反射する事が多いから、涼しいのであります。洋服でも夏は白いのを多く用ゐ冬は黑くし、日本の着物でも白地の着物は夏に限るのは凡て此理から出でたのに外ならぬのであります。

(其三)精神作用に及ぼす色の影響　人間の周圍の色彩に由つて人の精神狀態に影響を及ぼす事は小なるが如くして甚だ大なる物で有ります。夜と晝とて人間世界が陰陽全く異なるのは之れ全く周圍の明暗に因るものでありまして、春は人の氣が浮き立ち秋は沈み勝ちに成ると云ふのも一は其氣候にも因りますけれど主なる原因は花の色や靑葉の色、秋は枯枝落葉の色の爲であると云はねばなりません。衣服や裝飾品の色もやはり同理でありまして殊に之れは直接に人の身體に附屬して居るものでありますから、其影響も甚だ大であるのであります。看護婦が白衣を着け、女工が淺黃の服を着し、娼婦が紅の上衣を裝ふも皆彼等が精神狀態に相應したるのと云はねば成りません。若し看護婦や女工に紅衣を着せたなら病院も紡績も忽ちにして遊里と化するでありましやう。今の女學生の間に專ら行はれて居る海老茶色の袴は七年程以前から流行し來つたものでありますが、其頃から追々東京邊では女學生の惰落等と云ふ事が盛に稱へらるゝ樣に成りましたので、四五年前の新聞では之れは海老茶袴の爲である、海老茶色が

女生の心を浮立たしめたのであると云つた人が有つたと記憶して居りますが、私は此說には或は一面の眞理が有るのではあるまいかと恐れるのであります。其他例を擧ぐれば何程でも有るだらうと思ひますが、大人ですら此樣に自分の被服に因つて精神上に支配さるゝ物としましたなら、況して幼き者には何方へても傾き易き染み易き心を持つて居る者で有るから平常よりの被服や其他の附屬品や玩弄品の爲に精神的に影響を受けてそれが知らず識らずの間に性質と成つて、一生取去るべからざる惡性をすら殘す樣な事が有るに相違無いので有ります。併し乍ら私が今玆で何には如何なる色の物を用ゐたがよいと云ふ樣な事を一々申上ぐる事は到底出來ぬ事で有りますから

(其四)七色の表はす感情　を各々少し宛述べまして御參考に供する事といたしましやう。それには例の如く七色を順に記しましやうが、其前に先、色とは申されませんが、黑と白との表はす感情は如何かと申しますと、

白色　白は爽快、淸朗、喜悅を表はして居ます。

黑色　は其反對で嚴肅、眞面目を表はして居る。

而して其白と黑との中間を成して居る。

灰色　は如何かと云ふと全く無我を表はして居るので有つて、殆んど灰色自己の情、自己の存在を明にしない程で有ります。

次に七色に就いて申ますと、

紅色　は興奮性を示し活動的勢力を表はして居まして、紅の度を濃くする程興奮性を增すので有ります。之れが增加はつて暗紅色に成らば嚴肅の意を表はすに至ります。之れに反して紅が淡く成つて水桃色に成ると興奮性が漸次柔に成りまして興奮性喜悅を表はす樣に成ります。喜悅の情は紅には無いので水桃色に至つて始めて表はされ來るのであります。婦人の用ゐる襷の色が紅の物は見ても何だか氣が重く感ぜられるが、水桃色のを見ると何だか心地の好い安心した樣な氣に成るのは此爲であります。

併し日の丸の旗の色等はあく迄も嚴肅で興奮性でなければならぬから眞紅色であります。

、**橙色**　之れも矢張興奮性を表はす色で有りますが、之れが暗色が多く成つて褐色に成りますと全く其情を異にして殆んど無我を表はすに至ります。故に吾人の周圍に有つて別段氣に附かない物體に褐色の物は甚だ多いので有ります。

、**黄色**　之れは一に又温色と稱へらるる程で　興奮性の陽氣な色で有ります。菜の花に於て見らるゝ通りて有ります。併し之れは白味が加はる程烈しさが少なく成つて愉快な感情を加へ來るのであります。

、**綠色**　之れは平和と喜悅を表情する色で有りますから、吾人の周圍の色が之れで成る物が多い、凡ての草木は皆綠を滴たらして吾人が慰めて居るのであります、而して此色は其濃度を減ずるに從つて綠色特有の平和を失つて、光輝ある興奮性の色となり來るのであります、然るに之れに反對に綠色が黑味を加へて暗綠色と成つて遂に灰色となりますから全く中性の無我の色と成ります、だから吾人の周圍の物體には灰色で出來て居る物が甚だ多い、と云ふのは灰色は自分の色の表情が無いので他の物身の表情を妨げる事が無いからであります。前述の綠色と褐色と此灰色とは共に中性的の無我の色で、他の色を妨げ無いから四邊の物體の色と成つて居りますが、其中でも綠色にはまだ多少の表情が有ります、次で褐色には綠色程では無いがまだいくらかの表情は殘つて居りますが、灰色に至つては全く表情の無い色で有ります。だから成べく目に附かぬ樣に、妨げならぬ樣にする爲の色には之れが最も適當な色で有ります。西洋で服や幕等に多く此色を用ゐるのは此理で有りまして、日本でも近來の家屋では其窓掛の色等は、白を用ゐる事が少なく成つて、灰色かさなくば褐色が流行する樣に成つて來ました。

、**青色**　之れは一に寒色とも稱へまして極めて冷靜な

る色で有りまして黄色の反對を成して居ます、併し之れも又淡く成つて所謂空色と成りますと、平和的歡喜を表はす色と成ります。

藍色　之れは青色から紫色に移行する色で有りますから、青色の冷靜なる色にや、憂鬱と嚴肅とを加味したる表情を持つて居ます。

紫色　之れは憂鬱を帶びたる嚴肅の情を表はして居ます、此色は何と無く落附きが無い不安心な、靜心なき戀慕を表はして居る樣にも見ゆる、時て示せば晩春の色であります。併し之れも白味が増して藤色位に成れば餘程柔く成つて來まして柔き愁悶の情を表はす樣に成ります、又紫色と紅色との移行の色として紫紅色と云ふのが有りますが之れは餘程複雜なる烈しき情を表はして居ます。近年冬に成りますと婦人方の服裝の大部分は紫を中心としたる種々の色で出來て居まして、美しい事は實に此上も無いが、併し社會風教の上には如何で有りましやうか、私は今少し落附いた平和の色の流行を希望して居ます。

以上を以て七色の表はして居る感情を述べ終りましたから、此他の色は此基礎と成る色を組合して御考へ下さつたならば、其精神上に及ぼす關係も御了解の事と思ひます、そこで今色の御話をしました序でに少し色の配合の事を御話しして見ましやう、衛生上には直接關係は無い樣で有りますが、裝飾の上には大に關係の深い事で、それがまた知らず識らずの間に精神上に及ぼす作用は小なるものでは無いと信じます。衣服の美しいとか醜いとか云ふのはつまり其衣服を見て愉快な感じが起るか不快な感じが起るかに因るもので、愉快な感じの起るのはつまり其衣服をなして居る種々の色がうまく釣合つて居るか居ないかに因るのであります。調和して居ない色は見る人に極めて不快な感を與へるもので有ります。小兒等には斯かる事が矢張秩序ある精神作用を損なふものとなるのであります。かく申せばつまり

(其五)如何なる衣服が美しいか　と云ふ事は如何な

る色の配合が調和するかと云ふ事になる、何程立派な華美やかなる色の衣服でも、其色が調和せぬ色を配合してあつたら一向美しく無く却て不快の念を起すものであります。而して此色の調和と云ふ事が衣服なら衣服、帶なら帶の縞や模樣を爲して居る各の色の調和が必要でありますが、又之れを大くして帶の色と着物の色との調和、着物の色と羽織の色との調和、羽織の色と袴の色との調和、帶の色と帶上の色との調和、袖口の色と手袋の色との調和等凡て考へねばなりません。男子の帽子の如きも帽子の色とリボンの色との不調和の爲に實に見られぬ樣な色が有ります、醜いばかりで無く其人間が輕游に見える程の事も有ります。又小學校に通つて居る男女の兒童の服裝でも色の調和したのは見て心地がよい、殊に女の子が着飾つて居る服裝が色の配合のよい時には、其子の家庭の主婦たる人が奥ゆかしく思はるる程である、それ故に私は今左に如何なる色を配合すれば快感を與へ如何なる色を配合すれば不快の感を與ふるかを示しましやう。

	調和する色は	調和せぬ色は
紅色に	暗青色か綠色	紫色か紫紅色
橙色に	空色か紫か綠	黄色か青綠色
黄色に	紫紅色か青色	青綠色か綠か橙色
綠色に	紅色か紫色	青色か橙色
青色に	黄色か紅色	綠色
紫色に	綠色か橙色	紅色か紫紅色か青

以上で有ります。此表によつて服裝を作つたならば美しい趣味の高尚な風をする事が出來ましやう。此度は少し枝葉に渉り過ぎましたが次回からまた衞生上の事を續々申しましやう。

第二十五。婦人の居間は何處にすべきか

衣服の事を詳しく申ましたから、外出をする婦人方は各衞生的の衣服を着用して、各自午前の日課を果す爲に外出せられたものとしまして、方面を變じまして、話は家庭に在る婦人の上に向ひましやう家庭にある婦人と申しますと先づ主婦なり令嬢なり

てありますが、其人達の居間を何處にしやうかと云ふ事を定むるには、先づ家庭の婦人は何をして居るか、其室では如何なる事が行なはれるのかを決しなければなりません。之れは明な事で有りまして、裁縫もして居やう、讀書の時もあらう、小兒の遊んで居る事もあり、令嬢が編物をして居る場合もある兎に角主婦は臺所で食事の用意をして居る時の外は多くの時は此室に居るのである、ところが小兒共は常に母の跡を追つて母の側に居る事を欲するのでありますから多くの場合に此室はまた小兒の遊戯室をも兼ぬる事となります。又其家に幼兒のあつた時には幼兒は常に母が見て居なければならぬから、此室はまた同時に育兒室とも成るのであります。また時には餘り廣い家で無い場合には其令嬢の居間は何處かと云ふと、難しい學校へ通ふ人は左様ばかりも行きませんが、家學的の令嬢では裁縫をしたり、一寸した讀書や、生花のお稽古、琴の温習位は主婦の室でお母さんの話相手をし乍ら、教はつて居る様な場合が隨分ある、だから此室は同時に令嬢の私室ともなる。主人は如何かと云ふと晝間は何處かに勤務して居るとか實業に從事して居るとか、それ〳〵の用事が有るが夕方から始めて自分の身體になるが、併し晝間の劇務に勞れて居るから、夕食後直にまた自分の乾燥無味なる書齋に退くに忍びざるものが有つて、先づ暫は家庭の暖き風にふかれ家庭の甘味を味はんが爲に主婦の室に赴く事となる、すると子供の惡戯が面白かつたり、婦人の話に興味が有つたりと云ふ樣な譯から、つい其儘話込んで仕舞ふ樣な場合が隨分多いだらうと思はれる、して見ると此室は一家中が皆集る室と云ふた方が適當と成るので有ります、然るに世間では往々此大切なる主婦の私室を無視して、どうせ家の者ばかりの部屋で小供が澤山て汚す所だから如何でも好い、それよりは客室を大切にしなければならぬと云ふ人があるが、之れは間違つた考と云はねばなりません、客室も大事には相違有りませんが客室は客の來た時にばかり用ふる

室て有りますから、其室の衛生が如何て有たにしても暫時の客に對して左程の害を與へる事は有りません、主婦の私室は終日終夜多くの人が居るのてありますから、其部屋の衛生狀態は早速に家庭全體の健康に關するのてあります。然らば主婦の室は如何なる條件を必要とするかと申しますと、

(其一)明るくなければならん　之れは最も大切て有ります。第一部屋が明るく無いと不潔に成り易いからてあります、掃除をする時にも薄暗い時には丁寧にした積りても埃が見え無くて殘つたり、棚の上や物の後に埃が澤山たまつて居ても氣が附かぬから掃除をし無かつたりする樣な場合が多い、明るい室ては其樣な事は無い、塵一本殘つて居ても明に見えるから、どれ程横着な下女ても、知らず識らず丁寧に掃除をする樣に成る。又明くて室が奇麗になるのが嬉しいからつい雜巾も掛けて見やうと云ふ樣に成て室は常に清潔に保たれる、次に又暗い室ては小兒に近視眼を出す事が多い、近視眼は暗い部屋に細い物を見やうとするが爲に起るもので有ります、之れが學校にて起る事もあるが、今は教室が薄暗い樣な學校は滅多に無いから多くは家庭て出來るので有ります。學校の明るい室て小さい字を見て居たのが家庭へ歸つて暗い室に入つて、矢張學校と同樣の積りて見るから、自然目に近づけねば見えない、知らず〳〵目に近く持て來て見る、それが癖に成つて近視眼に成るのであります、殊に此頃の樣に小さい字の外國文を讀だり、新聞を讀だりするには是非明るい室で無ければ成りません、又令孃方は此室て編物や縫物や其他種々の細い事を稽古するので有るが、暗い室では十分によく見えない爲に丁寧にしやうと思つた處もいゝ加減にすまして置く事に成つて、終には何事につけても緻密と云ふ事が缺けて來る樣に成るので有ります。

(其二)光が入らねばならん　成べく多く太陽の光が直接にさし込む室で無くては成らぬ、前にも申しましたが太陽の光線は諸種の黴菌を殺す力のあるもの

であるから、室内に光線が多くさし込む程其室は黴菌の少ない部屋と成るので有ります。黴菌と云ふものは腐敗した物や濕氣た物ばかりに居るのでは無い如何なるものにても附て居るので有るから、日光の入らない室はあまり安心が出來ないので有ります殊に家に病人でもある様な時には是非共日光消毒の必要があります。

（其三）通氣が自由で無くてはならん　室内の空氣が如何に汚れ易いかは既に申述べた處であります。殊に此室は前申ました通り多くの人が始終入て居る室で有りますから一層通氣の必要は大で有ります。

（其四）温暖で無くてはならん　常に暖な室に居る人は暖氣に慣れて怠惰に成り易いと心配する人もありますが、多くの場合にはそれは全く正反對で有ります。何故かと云ひますと寒い處に居て元氣が出ると云ふ其元氣は所謂附元氣でありますから之れは一時的のもので續いて出るものではありません、だから其元氣の出ない時には寒さの爲に活動力が減じて、つい物事に手を出すのがいやになり、無爲にして暮す様な事と成り易い、暖氣の爲に怠惰に流れる様な人なら寒い處では殊に怠惰となつて仕舞ふて有りましやう。それも年を取た者は理性が有るからまだよい様なもの丶小兒等では自分に慾得の考が無いから、寒い處ではツイいじけて仕舞つたまゝになる事が多く、それが習ひ性と成つて活動力の少ない小兒と成るでしやう。又其室の寒温は其中に居る人の心理狀態をも左右するもので有りまして、暖き室に居る人は心も自ら温に成て來るから、お互の間も面白く、家庭の興味は津々として湧き出づるので、人々皆家庭を樂しんで成べく家庭に居らん事を欲する様になる、家庭が冷であると面白味が無いから皆々外に出る事を欲する、小兒は他家に遊びに行く様に成り、令嬢はお友達の家で夜を更す様に成り、主人は他に面白い處を作る様になり、終には奥様もつまらないから芝居か寄席へでも行かうかと云ふ様な事に成らぬとも限らぬ。主婦の室が暖

く無いからとて直に此樣な騷ぎに成るとは申ませんが兎に角氣候が知らず識らず人の心を作用するのは事實で有ります。

以上は只婦人の居間だけに附いて申したのでありますが、此序に

第二十六　如何なる家が衛生的なるか

を簡單に述べて見ましやう。勿論之れは理想的に申上ぐるばかりて有りまして、家庭には各々其事狀が有りますから、其事狀を棄てる譯には參りません、只茲に御參考の爲に申して置けば、二者何れをか撰び得る樣な場合に、少しても衛生に適した方を撰ばるゝ事を希望致すので有ります。

(其一)土地は如何　家の建てらるゝ土地としては、石地か砂地等にて濕氣少なく空氣乾燥して、淸良なる飲良水を持つ所が宜しい、街外れの新開地等では時によると、堀を埋めたり溝を潰したりして其上に十分土地が出來ない處に家を建てたり、四方から惡水汚物の流れ來を谷合の樣な所に家を建てたり、四方に樹木が欝蒼として日を見る事の少ない中に家を建てたりする事が有りますが之等は宜しく有りません、總體濕氣のある處ては土地に有機分に富み諸種の黴菌等も澤山居り爲に流行病や傳染病に罹り易く病氣に罹ると治り難いので有ります。流行病等が一度此樣な地方に入ると其蔓延が至て迅速て其去る事が甚だ遲いので有ります、脚氣とか結核とか、膓窒扶斯虎列拉の如きものもかゝる處にては多く行はれる、かゝる地方では汚物が常にじみ〱と土中に染んて居るから飲料水には多量の有機物質を含んて居て甚だ有害て有ります。

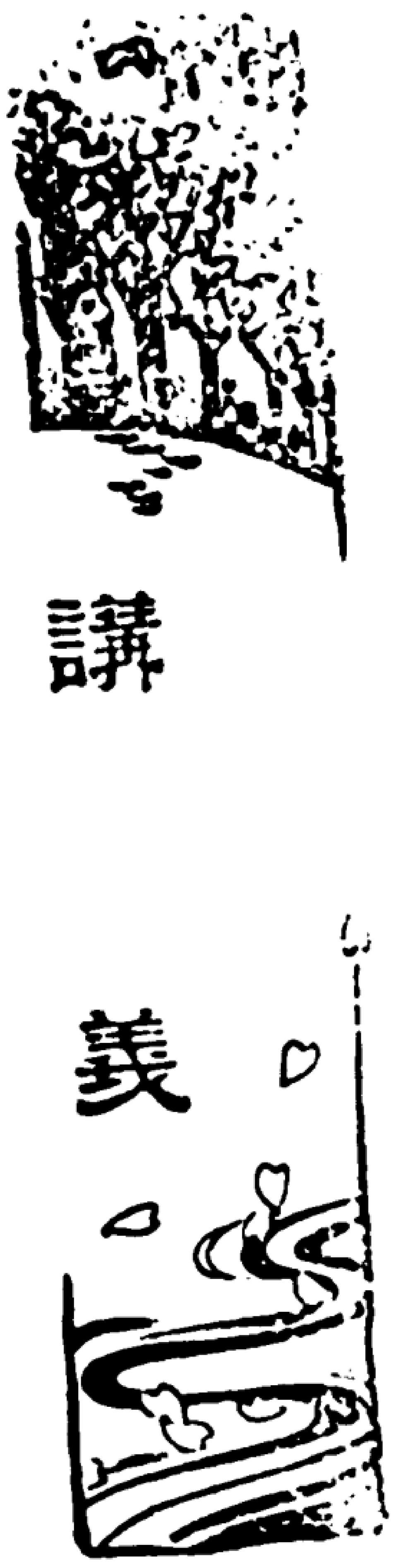
(其二)位置は如何　位置は決して強ふる譯には參りません、職業其他の都合によりやむを得ず好ましからぬ位置に住む人も多い事と思はれます。只理想だけを申さば、第一には前條の濕氣のある處は避けねばなりません。次に日光の射し込まぬ樣な處は避けねばなりません、それには前申した樹木欝蒼と云ふ事も原因になりますが、都會の生活ては、餘りに人

家稠密の爲に日光の入らぬ事が往々あります、故に東西の町ならば南とか北とか、南北の町ならば西とか東とか、何方か日光の來る方向にて、向ふの家か裏が餘りに近く立つて居ては困ります、だから其向ふなり裏なりの家の屋根の上から來る日光が直接に吾家に入るだけの餘裕は無くては成りません、次には又其周圍の事物をも考へねば成りません、孟母が三度家を遷したと云ふのは昔の事ですが、今では殊に周圍の事物の爲に害を蒙むる事が多い。下等なる人々や、騷しき製造所等の近邊に家を持つのは兒童教育上善く無い事は勿論で有りますが、又近傍に有毒の瓦斯や烟や煤を出す製造所や、汚物や不潔の水を出す會社等の近傍は衛生上甚だ宜しく有りません、上野公園の東端の垣下にある多くの樹木が汽車の烟の爲に黑く燻つて居るのを見ても不愉快でしやう、あれが皆部屋の中に入て來る家もあると考へたら怖しいとも思はれましやう、故にかゝる處に住まねばならぬ人は換氣法や其他の事を餘程深く考へねば成りません。

(其二)室の配置は如何　之れも甚だ必要な事で有ります、室の配置如何によりましては、不衛生的の家に在てもある程度迄は衛生的に暮す事が出來ます。第一は主婦の室で有りますが、此室には前申した通りの要件が有りますが此條件を充すためには此室の方向は南面か、さなくば東南面かが宜しい、其方向を得ずんば少くとも日光の直射し得る室で無くては成りません、次は客室と玄關で有りますが、此二室は人が居る時は少く、隨て汚れる事も少ないので有りますから、日光が直射する必要は無いかと云ふて此等の室は他の室に圍まれたる中央にとる譯にも行かぬのであるから、北面の室が適當で有りましやう、次に湯殿と臺所は如何かと申ますと、此樣な處は如何でもよいと云ふので閑却されて居る場合が甚だ多いのでありますが、これは大なる誤で、家の中で最も汚れ易く、隨て衛生上最も注意を要するのは此臺所と湯殿であります、常に水を使ひ常に

汚物を流す所て有るから、此處に風が通らずば濕氣易く腐敗を起し易く、此處に日光が直對せずば乾き難く黴菌を殺し難いので有ります。最も清潔に保ち易い、日光の直對し易い、風通しのよい處を撰ばねばなりません。次に便所は北向の方が宜しい、便所にあまり日光があたるのは見て不快なるのみならず衛生上にも宜しく有りません、殊に夏季等南風徐ろに吹き來る時便所の臭を家中に送られてはたまりません。又床は成るべく高い方が宜しく床の下は折々掃除して清潔に保つて置かねばなりません。

（以下次號）



講義

衛生學の大要（承前）

醫學士　河野衛君述

水

水は吾々の身體を養ふて行くに必要な品てありまして、亦同時に人の嗜好品の一てあります、文明史を繙いて見ると、最も始めに人の集まるのは河に沿ふた土地てあります、文明と河とは密接の關係のある事は皆樣の御承知の事柄てあります、

人類の生活上水は極めて多方面に使用せられるものてありまして、衣服、身體、住居、市街抔を清潔にするには必らず水を用ひまするし又食物をつくるにも水の缺くべからざるものてある事は分り切つた事柄てあります、斯くの如くに多方面に向つて使用せらるゝのと同時に、水其ものに對して吾々の要求する條項も中々に多い、之れも主に水の性質と其分量とに就いててあります、そうして水に對する吾々の要する箇條が分つて居れば、即ち水に就きての衛生學的知識を具へて居れば、水の供給が充分であるか、不充分であるか、必要なる水は如何にして得らるゝものであるか、何所から取る事の出來るものであるかといふやうな問題を解決する事が出來ます。

日々の用量

そこで吾々が營養の目的に向つて使つたり、渴を醫するに費やしたり、食物の調理、什器の洗滌、抔の爲めに要する水の量といふものは比較的尠いもので通常一人一日に付十から二十「リーテル」位なものであります、併しながら、吾々の家屋の內外を淸潔にするに用ふる水の量は極めて莫大なものであります水は吾々の身體や吾々の周圍を淸め或は汚物を除き、病を未發に防ぐ爲めに用ふる最良の品であります、それ故に公衆衞生では、淸淨に要する水は、充分に之を供給するやうに勉め、是れを以て、其主要なる責務と心得なければなりませぬ、それから水の日々の用量は季節に依つて著しい差異があります夏では平素の一倍半から二倍の水を使ひます、一般に云ふと夏期一人一日に就いて百五十「リーテル」の水を供給する事が出來れば、先づ充分であります、それで一人一日に使ふ水の量は先づ普通百五十「リーテル」と見れば宜しいのであります、

完全な水を充分に得る事の出來ない場合には、二つの仕掛が入ります、それは一人一日に四十「リーテル」の飮用水と一日一人百「リーテル」の用水とを供給する事の出來る仕掛けがあれば宜しいのであります、飮用水を導く法では、其水は勿論家事の用に供し、用水を導く法では之れを市街の掃除工業用の目的、便所の掃除抔に用ふるのであります、併し斯くの如くに飮料水と用水とを區別するのは、衞生上から言ふと宜しく無い事で有りまして、用水も飮料水も共に同しやうに衞生的間然する所の無いものを用ひなければなりませぬ。

水道の水を用ふるに、用ふる人の不注意と濫用との爲めに餘計な水が費消せられて、水の價が高くなる所から、濫用を防ぐ爲めに用ひた水は分量に應じて價を拂ふ事に成つて居ります、

そこで吾々の需要に供する水の性質は如何なるものであれば宜しいかと申しますと、

一、飮用に適し

二、無害にして
三、實用上適當

のものでなければならぬ、

水は無色で、透明であつて、無臭で且つ、其溫度が餘り大なる變化の無いもの即ち夏期と雖も餘りあつくならず、冬と雖も餘りに冷た過ぎぬ（攝氏八度から十二度位）のものは飲用に適する、炭酸の含量が尠いと水の味は清涼であります、そうして種々な雜りもの即ち黴菌無機物有器物のやうなものが混じて居らぬ水は身體に害になる事はありませぬけれ共、斯ういふものが若しも雜つて居る水を永く用ふるとか、或は永くて無く共場合に依つたら、一度用ひても病氣を惹き起す事があります、其の雜り物の有無を知るには、化學的檢査と細菌學的檢査とを行はなければなりませぬ、

水の中に溶解して居るもので主なるものは、鹽化物硝酸亞硝酸アンモニア鹽抔であります、亞硝酸鹽は良水の中には無い、何故なれば亞硝酸は窒素含有の物質が分解して始めて出來るものであるからであります、アンモニアは鐵を含んで居る水の中にあります、

それから水の中には、カルシユムとマグネシアとがある、之を多量に含んで居る所の硬水は、過敏な胃には適しませぬ、且つ硬水は不溶解性の化合物が造りますから飲食物の調理に用ふる事が出來ませぬ、金屬では鉛を含んで居ります、之れは有害であります、

海の近傍の水には鹽素が多いけれ共、都市の水の中にある鹽素は不潔物、人或は動物の尿抔が追々と地中に浸み込んで地下水の中に入り主に鹽化ナトリユムとなつてあります、それで衛生上から言ふと、鹽素の多い水は不潔であります、水の中のカルシユムとマグネシアは炭酸の爲めに溶けて居る、カルシユム、マグネシアは人間動物の糞便からも出る、カルシユム、マグネシアが多量に水の中にある時は、物を煮たり、洗つたりするに使用する事か出來ませぬ

此の水で石鹼を使ふと、石鹼は分解せられて、不溶解性の脂酸鹽が出來ます、それで石鹼の性質が變して、泡が立たなくなります、前にも申しました如くカルシユムの多い水―硬水に胃病を起し、消化障害を惹き起す事があります、硬水は物を煮るに不都合であつて、豆抔を煮ても軟かくなりませぬ、それは炭酸と蛋白と化合しまして、水が内部に入つて、膨脹させるのを妨げるからであります、又珈琲茶抔を造るにも不適當であります、物を洗濯するにも、石鹼の効力を失はせますから、洗濯に適しませぬ、それから硬水は蒸氣釜抔にも使ふ事が出來ませぬ、

水中の鉛は、水道の水を室に導くときに、鉛管を使用する、是れから鉛が水の中に混じます、それから水の中には種々な細菌が居ります、或は寄生蟲の卵アメーバのやうなものが居ります、凡て細菌に限らず他の種々な生物が居ると固より其水は衛生上危險であります、――コホ博士は印度に於て、水溜の中に虎列拉菌を發見したのであります、又水の中から窒扶斯菌を發見した人があります、窒扶斯と飲水との間には密接な關係がありまして、ダンチとは窒扶斯の流行する土地であつたのでありますが、水道が設けられても窒扶斯が減じなかつたけれ共、下水道が設けられてから罹病者が減少したといふ事であります東京でも水道のある所では尠い、細菌の全く含まれて居らぬといふ水は甚だ稀であります、水道の水、泉水にも細菌は居る、併し泉から涌き出る水には甚だ尠くて、時としては全く無い事もある、

そこで衛生的の良い水といふのは、(一)各種の病原菌を含まず、(二)味が良くて、(三)水の分量も澤山なくてはならぬ、(三)硬度が高くてはいかぬ、(四)金屬の有毒分を含有して居てはならぬ、水の中には腐敗菌、臭氣のある瓦斯寄生蟲卵のやうなものと混じて居てはならぬのは固よりの事であります、水は無色で、清涼の味を持て居なければならぬ、此味は炭酸が與へるのであります、水の溫度は攝氏の十度から十五度の間が最も適當であります、暖帶では地下水の溫度

は其土地の溫度を持つて居ります東京では夏冬共に十五度位であります、水の溫度に高低の差の著しい變化のあるのはいけませぬ、そうして一日一人の用量は百五十「リーテル」としてあります、米國紐育では、ズット多量であつて、一日一人に付き四百五十から五百五十「リーテル」と定めてあります、場合に依つては水の用量が嚴しく制限せられてある所があります、即ち船では一人に付き四「リーテル」位に定めてあるのがあります、水の小部分は、飲料に供し、大部分は食物の調理、什器を洗つたり、市街、住居を掃除するに用ひます、水は成可多量に供給する時は、淸潔法が完全に行はれ、不潔物が少くなり病原菌も水と共に去つて了ひます、水質の良否を定めるには、單に化學的の方法で之を分析するのみでは不充分であります、化學成分は良くても、若しも病原菌が含んで居ては、不都合であります、實際分析上では良き水でも、黴菌を含んで居る事があります、之れ故に必らず細菌學的の檢査を施さなければなりませぬ。

給水法

さて上に述べましたやうに吾々の生活上用水を使ふ事は實に莫大なものでありますが、其水は何所から採るかと申しますと天然水河水海水地下水であります。

天水(雨水)は土地の表面で蒸發した水で出來たものであります、それ故天水は元來純潔なものでありまして蒸餾水に等しきものでありますけれ共大氣の中にある色々な不潔物が雜りますから、全く純潔といふ譯に參りませぬ。即ち土地の表面で蒸發した水は再び、地へ落ちて來る時に、空地中にある瓦斯や塵埃抔が混ずるのであります。それ故に天水は常に少量ではあるけれ共瓦斯や有機物質や、含窒素鹽類である硝酸亞硝酸化合物アンモニア抔を雜へて居ります。衞生上から云ふと、天水といふものは給水上大した意味はありませぬ、何故なれば天水は其量が甚だ尠いから絕えず之を使ふ譯に參りませぬ。併しな

から水の尠い土地では之を用ふる事があります。例へば熱帶地方殊に亞丁亞剌比亞等に於ても飲料に使ひ、又地底水を得る事の出來ぬ所では雨水を集めて使つて居るは或は小さな工業上の目的て、鹽を含んて居らぬ水を要する場合にも用ひられます。併し雨水は溜る間に分解し又地上へ落ちて來る時に汚物が混じますから砂、コークス、木炭抔て漉して用ひなければなりませぬ。

河水、湖水及海水から、給水するといふ事も衞生的は無い、河海の水は外氣の溫度て左右せられますからして、夏期は餘りに溫か過ぎて、飲料に適せず、冬は冷た過ぎます、河水は天水が加はり、下水が流れ止み、各種の工場から不潔物が這入り込み、屠牛場の近傍ならば血液が流れ込んだり、致しますから河水といふものは非常に多數の細菌不潔物を含んで居ります。隨て飲用に適しない、河水の中にある不純物は、河底に沈着し、カルシユムやマグネシユムの重炭酸化合物は、炭酸が去るが爲めに、單に炭酸化合物となつて河底に溜ります、不純物は一部分は過酸化水素の爲めに除かれます。水が太陽光線に逢ふと、過酸化水素が出來て、酸化せらるべき物質は酸化せられ、細菌も一部分は酸化せられる。

海水には多量の食鹽を混じて居ります、海水一「リーテル」の中に二十五瓦の食鹽を含んて居るそれ故に、之れは其儘は飲料に用ひられませぬ、船では海水を蒸餾して用ひて居ります。

給水に最も適して居るのは地底水であります、地底水といふのは地の下にある水の事て、地底水は土地の上層て水が濾過されて、其濾過された水は、水の通り抜けを許さぬ地層の上に集つて出來たものであります。地の下の方の層には水の通過する事の出來ない層がありますから水が茲迄來れば、皆此層の上に溜る譯であります。地底水は、地層で濾過されて居るから、水の中の小生物細菌のやうなものは凡て地層に溜まりますから、細菌が非常に尠い、それから水は純粹て、溫度が平均して居て、溫度の變化が

著しくない、土地の狀況に依つて、固より一樣ではありませぬが、地下三四メートルの深さでは、殆んど地底水の中には細菌が無い、若し有つても、極めて僅かであります、地底水の溫度は、其土地の溫度でありまして、土地の溫度は其昇降が著しい變動を呈しませぬから、隨て地底水も殆んど常に平均した溫度を持つて居ります、地底水が自然に土地の表面へ露出して居る場合には泉水と申します、給水の目的には、之れに管を導いて、任意の所へ水を送るのであります。もしも此泉が無い時には、人爲的に地を掘つて水を汲み出します。通常井を掘ります、我國では深く地を掘りまして、周圍に壁を造り、眞中に水を集めて、使つて居ります、但し井は成可高い所に穿ち、汚物の溜る所から一家の距離に設けなければなりませぬ。中の壁は水の透らない堅牢な物質で造り、上には被覆を設けて、塵埃の入るのを防がなければならぬ、汲み出すには、喞筒を用ふる方が宜しい、釣瓶は汚物の入る恐れがあります、

或は地の中へ深く鐵管を挿入して管の下端に金屬の網を附けて石砂の入るのを防ぎ、水を取る方法もあります、是れは管井であります。

小部落の土地では、多くは井戸の完全なものがあれば給水には差支がありませぬけれ共、人口の多い所では、常に大量の水の貯へが無くてはなりませぬ、火事杯の時に大量の水を供給する準備が必要であります、又一時給水が止まつても之に應ずる丈けの設備が無くてはなりませぬ、それには一ヶ所に水を貯へて置いて、之れを其區域に分配する仕掛を要する且つ其貯水の場所は、水の壓力に依つて、何れの方向へも流れて行くやうな位置に設けなくてはならぬ、それから其水は固より充分に需要に應ずる量でなくてはならぬ、それから其水には外氣の溫度の影響を蒙むらぬやうな仕掛けが必要であります、即ち夏でも餘り暖きに失せぬやう、冬は冷た過ぎぬやうにしなければなりませぬ、斯かる裝置が今日の水道であります。

水道て水を供給するには、高い所に水源地を設け、此所から各區域に給水する、或はポンプて水を分配することもある、獨逸伯林の人口は百九十萬有るが水源が中々多い、井戸も中々多くあつて、其れからも水を給與します、或は河水を濾過して用ひたり、或は湖水の周圍に井戸を掘つて、水を集めて居ります。

東京の舊水道は多摩川と神田上水の二つの水源があつたのでありまして、多摩川のは羽村にあります、境から四谷の大木戸へ來て、玆から木管を經て東京へ入つて來たのであります、羽村から四谷迄は十里半程ある、神田上水は北多摩郡吉祥寺村にある、池は一萬二千七百七十坪あつて、是れから小石川の關口へ來て(五里半)巣鴨の溜池へ來て、それから本郷へ來るのであります、此舊水道は今日用ひられて居らぬ。

新水道は如何であるかと申しますと、市の人口百五十萬に付き、一人一日に百十リーテルの水を給するやうになつて居ります、水源は舊水道の水源であつて、多摩川上水であります、それは豐多摩郡の水源地から淀橋へ來て、玆にある沈澱池に入る、其池は九百萬立方尺の水を容るるに足ります、此れで百五十萬の人口に向つて一日半丈け給水する事が出來ます、沈澱池は長さ百二十間で幅五十六間、深さ三間半である、濾過の速度は二十四時に十「フース」である、一米突半位の速度である、濾池が十四ありまして、長さ二百五十八尺幅百六十八尺深さ九尺であります、其外に豫備池が四つある、全體で十八ある、それから濾過した水を水溜に貯へて置く、此の水量は百萬人の人口に對し十二時間丈け給水する事の出來る量であります、此水溜は二ヶ所にありて一は芝一は本郷にあります、水溜の水は直に本郷に給水するのでは無くて、神田下谷の方面へ送り、芝の水溜からは、京橋方面に給水する、本郷駿河臺麴町邊は四谷からポンプで水を送る、水道の管の大きいのは一米突小なるは十分の一米突ある、尚此れよりも小

なるものもある、大きには十二種あつて、水道の長さは二六二三五〇間あつて、八百五十萬圓の費用を要して居る。

水道の水

水道の水を取つて見ると、透明で無臭で、反應はアルカリ性てあります、鹽素は五合の水の中に一、二ミリグラム程ある、硫酸の痕跡があつて、亞硝酸は無いけれ共、硝酸が少し含まれてあります、それから過滿俺酸加里が五合の水の中に一、二九ミリグラム計りある、細菌は一立方仙迷の中に百位ある、そてで水道の水は全く無菌てはない硬度は一、一てある。

横濱の水道は相模川から取つて、ポンプて水を延山に送り、濾過して、市中へ配布して居ります、始め明治十九年の頃は、人口が少くて七萬位てあつたけれ共、今日ては二十萬近くになつて居りますからして、始めの設計ては不充分になりましたから、池の水源から水を取つて居ります、給水の設計をする時には、先づ住民の増加に注意しなければなりませぬ。

横濱の外に大阪、長崎、函館、神戸、廣島に水道の設けがあります。

水に依つて傳染病が蔓延するといふ事は昔から考へられた事であります、して是れは確實であります、それ故に、公衆衞生て、水に依つて傳染病の蔓延しないやうに盡力しなければなりませぬ。

氷の中には黴菌は居らぬものと考へられて居た時代もありますけれ共、其實そうでは無いのであります、零度の寒氣に逢ふても、死滅しない細菌がありますす、又零下に降つても、死なぬものもあります、夫れ故に氷を溶かして調べて見ると此中に細菌が居ります、殊に不潔な河水で造つた氷の中には細菌が多くありまして、氷を溶かした水一立方仙迷の中に五十から二千、多きは二萬五千位も居る事があります、近來人造氷の中の細菌を調べて見ると、場所に依つて差があります。人造氷は四角な柱形に造りま

す、始め先づ其外部が氷結します、此部分には黴菌は極めて少數でありますけれ共、最後に氷結する中心の方になると黴菌が非常に多くて、外部に比べますと十倍から百倍の多數であります、氷が固まる時には水の中にある不純物を排除して固まるものでありますから、表面が始めに固まる時に其部にある不純物は段々中心の方へ集まつて來るのであります、それ故に氷の心の方は不純物が集まつて、不透明であります、隨て黴菌も多い譯であります、色素のやうなものも同じく中心の方へ集まつて來ます、それ故に氷を飲んだが爲めに、是から傳染病に感染する事のあるのは確かであります。

人工炭酸水の中では細菌は生活する事は出來ませぬ、併し炭酸水を造る時には清潔な水を使用しなくてはなりませぬ、何故なれば、短時間であるけれども、細菌が此炭酸水の中で生活する事が出來るからであります、虎列拉菌は二三日窒扶斯菌は一週間位生活を續ける事があります。

水の清淨法

衛生上全く安全な水を得る事が出來ぬ場合或は傳染病があつて、水の疑はしい時には是非共慥に細菌が含んで居らぬ安全な水を得る事を計らなければなりませぬ、之の目的を達するには色々な方法があります、第一には水を煮沸する、第二には濾過する、第三には藥品を加へて清淨にする。

水の煮沸

水を煮沸すると常に其美味を失ふものであります、殊に煮た水を冷却しない時にそうであります、併し煮るのと、冷却するのとを常に一つの器の中で行ふと非常に時間が掛ります、又手數も多く掛る、甚だ不便であります、そこで水を煮沸して、之を冷却する一つの都合の良い器が考案せられて居ります、此器では、煮沸せられた熱湯の持つて居る熱は、冷却せられたる時に、煮沸する方へ送られる、裝置になつて居ります、甚だ經濟的な仕組みであります、斯ういふ裝置を用ふると細菌の無い安全な水が得られ

ます。
水を洒沸すると、水の中にある瓦斯が逃げる、鹽類は沈澱して殘る、有機物質は變化し、細菌は五分間も煑沸すると死滅します。

濾過

水を濾過器で、濾過すると、細菌は死滅しないけれ共、濾過せられた水には細菌が著しく尠くなります、濾過するには砂、木炭、輕石、獸炭、石綿、海綿、毛布、羅紗、粘土のやうな品を用ひます、此塲合に水の濁りは取れますけれ共、細菌を無くする事は出來ませぬ、そこで細菌を尠くする目的に素燒て出來て居る器械があります、シャンベラン氏濾過器と謂つて、水道の管にネジ込むのであります。
海の水を蒸餾して飲料に供する事が有ります、海水を蒸餾すると食鹽のやうな物質が多少は還入つて來る、鹽酸、アンモニアのやうなものも雜つて來る、通常の蒸餾水はアンモニアを含んで居る、蒸餾した水を飲むと嘔氣を催す事があります、此れに空氣を吸はせるか又は振盪すると空氣を吸ひますから嘔氣を催さぬやうになります。

土地

是れから吾々の住して居る土地の事に就いて、少しく御話いたしましよう。
土地は空氣と同じように、矢張り吾々の健康に影響を及ぼすものであります、吾々は土地から水を取り、土地の上に家屋を建て、それから死體を土地に埋め、土地は人間動物の排泄物の幾分を取ります。
土地は地球の最外層であつて、石の破片、石屑や極めて微細なる粉末樣の物質から出來て居るものでありまして、衛生上大切なものであります。
土地の表面は御存じの通り種々な形狀を呈して居ります、其平で低い土地、或は凹沒して居る所は濕つて居りますから、斯ういふ場所に住んで居る人は種々な病氣に罹り易い、それから此所に建てた家屋も亦常に濕潤して居りますから、感冒に侵されたり、リウマチスに罹り易いといふ不利益があります、そ

れから四面に山の高いのがあつて、谿谷のやうな土地は空氣が濕つて居ります、次には土地が南方に向いて傾いて居れば暖いけれ共、北に向いて居ると寒いといふやうに、土地の傾き具合は衛生上大なる關係のあるものであります、それから土地に木が茂つて居ると否とは土地の濕度、雨、濕氣抔に大なる影響を及ぼすものであります。

土地の構造

土地は種々の大さの顆粒から出來て居ります、其顆粒の大さに從つて或は礫とか砂とか、或は細砂とかいふ區別があります、極めて細い顆粒から出來て居るのを「トーン」と名け、之に鐵と細砂とを混じて居るのを「レーム」と言ひ、之れに有機物を混じて居る時には、「フウムス」と名けます、それで土地といふものは、顆粒から出來て居るものである故、其間には必らず大小種々な空間があります、其空間の總和を氣孔容積と名けます、そうして其氣孔の中には固より空氣もありまするし、其他水や細菌も入つて居ります、此外に種々なる不潔物が入つて居ります

それで此氣孔の大小に依つて、土地の含有する炭酸の量に關係を及ぼします、土地は水や空氣を自己の中に取り入れますが、土地が濕つて居れば、空氣の通過が妨げられます、土地が水を吸收するのは毛管現象で、一定の所迄は下の方から水を吸ふものであります、それから土地の吸收する水と空氣の量は、下から水が行くか、上から落つるかに依つて相違を生ずるそれから、土地は糞便抔を無臭にする作用がある、之れてヨク糞便に土壤を掛けるのを見ますが此理に依るのであります、それから瓦斯が地中で破裂すると、其臭を土地が取つて、無臭にしますから、夫れが爲めに人が中毒に罹る事もあります、その他土地は有機物なり、無機物なりを自己の中に抑留する性質を持つて居ります、是れから

土地の表面作用

といふ事に就いて、今少しく詳しく申し述べましよう。

土地には一種の粘着作用といふものがあります、それは例へば水であるとか、瓦斯であるとか、或は蒸氣とかいふものが、土地の上に來ると、此等のものは土地を構成して居る顆粒の表面へ吸收せられて了ひます、即ち蒸氣なり、水なり、瓦斯なり、皆土地の中に留まる、それから此吸收作用は、土地が乾いて居る時には著しく、又土地に有機物質が多く含まれてあると水や瓦斯を吸ふ力は強くなります、そこで今土地に水を掛けると、此水は土壤の中へ吸收せられますが、其吸はれる水の量は土地に依つて相違があります、水を多く吸ふ土地では水が土中を通過する速度は遲いけれ共、水を吸ふ力の少い所では速度が速うあります、

土地は瓦斯や蒸氣を吸收します、それで大便の上に土壤を掛けると惡臭が取れます、又瓦斯が土中を通過する時にも、其臭氣は土地の爲めに取られて了ひます、是れは土地に瓦斯を吸ふ力があるからであります。

その次に土地には分解作用といふものがあります。それは種々な毒性のある藥品を水に溶かして、地上に注いで見ると、分解せられて毒性を失ふものがあります、又色素を水に溶いて、土壤の中を通過させると、是れが分解して色を失ひます、それから種々なる有機物質も亦地中では分解しまして、窒素は硝酸となり、炭素は炭酸となり、水素は水となります、此の分解作用は土地の性質に依つて相違がありまして、顆粒の小い土地は顆粒の太い土地に比べますと、分解作用が強いものであります、土地の中の濕氣が適當であると分解作用は盛に行はれます、又土中の温度が低く過ぎたり、高過ぎたりすると、此分解作用は弱くなつて來ます。

上に申し述べましたやうな性質がありまするが爲めに、吾々の住んで居る土地は比較的清潔であります、もしも土地の上に棄てられた不潔物が其儘であるときは、土地は勿論、地底水も大變に不潔になる筈でありますけれ共、上の如き作用のある爲め、土地、

地底水は案外清潔に保たれて居ります、此れを土地の自淨作用と呼んで居ります。

然らばどうして一體此自淨作用が起るものであるかと申しますと、不潔物が常に酸素に觸れて居るといふ事にも原因しましようけれ共、主なるものは土地の中に腐敗菌といふ奴が居るからであります、即ち此腐敗菌は複雜なる化合品を分解する性質を具へて居るのであります、そこで此腐敗菌の居ない土地では自淨作用がウマク行はれないのであります。

土地の溫度

土地の溫度は主に太陽から來るものであります、それで溫を吸收する性の强い土地は暖かであります、土地の中の空氣、濕氣は太陽から來た溫を土中へ導く上に關係を及ぼすものでありますからして、此空氣濕氣の多少で土地の溫度に差異を生して來るものであります、それから土地の形狀に依つても差があります、例へば南向きの斜面は溫を多く取るから暖いけれ共、北に向いて居る土地は溫を取る事が少いから冷い、それから土地の色にも關係し、有機物質が分解したり、腐敗作用が行はれるといふ事にも關係があります、又水の蒸發にも關係して居るものであります、土地に分解作用が行はれるときはイクラか溫を出しますから、太陽から來る溫の關係を除いて申しますと、不潔なる土地は少し暖い事になります。

土地の最上層に於きましては、土地の溫度は空氣の溫度と平行して差異を示して空氣の溫が高ければ地溫も高いけれ共、深く地中に入ります、地溫が空氣の溫度に從ふて差を示すのが尠くなります、是れは土地の表面から溫を傳導するのに時間を要するからであります、地底水で深い井戸の水は溫の變化が少い地下半「メートル」では一年中の差異は殆んど無いけれ共四「メートル」の深さでは四・五度の變化がある、八「メートル」となると一度の差がある、三十「メートル」以下では差は無い、是れより深くなればなる程溫度は再び高くなりまして、三十五「メートル」

毎に一度の差があります、是れは地球中心の溫度に依つて、土地の溫度が增すからであります、西比利亞のやうな寒帶では地下數百尺迄零度の所があるかと思へば、熱帶地方では十數尺の所迄三十度內外の溫を持つて居る所もあります。

そこで土地の溫度は衞生上如何なる關係を持つて居るものであるかと申しますと、地溫は氣候に關係を及ぼし、細菌の繁殖に關係を及ぼします、土地の表面では通常病の源になる細菌は繁殖しませぬけれども、氣溫が高くて、腐敗菌が少い時は、病源菌が繁殖する事があります、地溫は腐敗に關係を持つものであります。

地中の空氣

土地の中の空氣は絕へず土地表面の空氣と交通して居るものでありまして、地上の壓が高くなりますると空氣は地中に這入りまして、地中にある空氣は壓力の低い方向に出て行きます、地中の空氣と地上の空氣とは相違がありまして、地中の空氣は炭酸が多くて酸素が尠い、又水蒸氣の含量が多い、その他安母尼亞、硫化水素、炭化水素も含まれて居ります、其炭酸は何から出來るかと言ふに、是れは炭酸を含む有機物が地中で分解するに依つて出來るのであります、それ故に土地の淸潔であるか、不潔であるかを知るには、其炭酸の多少で之を定める事が出來ます、然しながら不潔物は多くても、濕氣と溫度の具合が分解に不適當である時は、炭酸の生ずる事も少いものでありますから、單に炭酸の量ばかりでは、淸潔であるか否かを知る標準にはなりませぬ、又不潔物は割合に少くても、濕氣と溫度との具合が分解に適當であれば、炭酸を出す事も盛になつて來ます、それから空氣流通の如何にも大切な事でありまして、もしも流通が良くないときは、出來た炭酸は一ヶ所に集まりまして、他方へ行きませぬから其所丈けを見ますと炭酸は多いやうに考へられます、流通が良いときは、多量の炭酸が發生しましても、一所に蓄積せずして他の所へも行きますから、其量が

少いやうに見えまして、土地は清潔であるやうに考へられる事があります。

地の中から空氣が地上へ出て來ても黴菌を持つて出て來ないから、地中の空氣の爲めに、地中の細菌が運ばれて、空氣の中へ雜るやうな事はありませぬ、併しながら有害瓦斯でも地中にあれば、是れは空氣と共に用捨なく室内抔に這入つて來まして、吾々に害を與へます、又地中の空氣は前にも申しましたやうに濕潤して居りますからして、空氣中に入れば隨て、吾々は濕潤空氣の中に居る事になりまして、不利益であります。

地中の細菌

地中には大變に多くの細菌が居りまして、殊に地の上層の方に多うあります、けれ共段々と下の方になりますと、次第に減じ四「メートル」も下ては殆んど細菌は居らぬといふ事であります、一立方仙迷の中に十萬から數千萬といふ多數の細菌が居ります、然るに之を空氣や水の中にある細菌の數に比べますと著しく多うあります、即ち空氣では一「リーテル」の中に一から十の細菌があつて、水一立方仙迷の中には百から千倍の細菌が居るのであります。

そこで地中にある黴菌は主に腐敗菌でありまして、病原菌は尠いのであります、腐敗菌は土地の自淨作用を營ましむる効のあるものでありまして、有機物質を分解し、硝酸、亞硝酸、炭酸抔に分解せしめ、此等の物質は植物の生長に利益を與へ、之れが爲めに動物界に向つても有用のものとなる次第であります、之れから病原菌としてどういふものがあるかと申しますと、それは破傷風菌、惡性水腫菌、化膿菌或は結核菌、脾脫疽菌、ペスト菌、チフス菌、コレラ菌のやうなものが居ります、然し此等の細菌は、永久に恒に存在するのでは無くして、斯ういふ細菌を含んで居る汚物が地の上に棄てられた後は、一定時の間生活して居るのみてあります、それから地中にある病原菌に人が、感染するのは、多くは之

に接觸した物の媒介で人體に感染するのであります。

土地の化學的性質

土地の主なる成分は硅酸、炭酸、カリユム、ナトリユム、石灰「マグネシア」陶土杯の化合物でありまして、此等のものは大抵水に溶けないものでありますから、衛生上大した影響を人に及ぼすものではありませぬ、然らば衛生上最も直接の關係のあるものは何であるかと申しますと、之れは、人間動物、植物の生産物であつて、此れが土地の上に棄てられて、そうして土地の成分になつて居るものであります、是れが一番衛生上肝要なものであります。

そこで土地の成分と人の健康とは關係のあるものであるか、どうであるかと申しますに、それは關係のある事が明であります、北獨逸に於て石灰の多い土地に生活して居る農民は、石灰の少い他の地に居る農民と較へて見るに、概して身體が强壯で、健全であるものが多いといふ事であります、又動物でも矢張りこの通りで、石灰の多い土地に生活して居るものは通常剛强であるといふ事であります、その次に石灰の多い土地の人は身體が强壯であるのみで無く、齒も亦强いが、石灰の少い土地の人の齒は弱いとの事であります、又石灰の多い土地の人は結石病に罹るものが多いと申して居ります、甲狀腺腫といふ病がありますか、是に罹るものも土地との關係が重要であると云ふ人があります。

チフスやコレラのやうな傳染病は其黴菌が地中で繁殖して、人體を侵すのであると言はれて居りましたけれ共、是れは間違いであつて、病原菌は地中では發育しないものであります、なぜなれば地中には無數の腐敗菌が居りまして、之の上溫度が低くて到底病原菌の發育に適當しないから、タトへ地中に病原菌が這入つて來ましても腐敗菌との生存競走に負けて了つて、消滅し、決して增殖する事はありませぬ、それで土地の不潔といふのは、汚穢物が適當の方法で除去せられないに因るのでありますから、汚

物と共に來た黴菌は吾々の住んで居る土地の中に侵入し、一定の時間生活を保ち、傳染力を具へて居りますからして、吾々の身體を侵し易うあります、然しながら清潔な土地では病源菌を保つて居る汚物は速に除去せられますからして病源菌の地中に入る事は至て尠く、隨て人體を侵す危險が尠いのであります、之れ故に傳染病は不潔な土地に多くて、清潔な土地に少いのであります、其他不潔物を多量に持つて居る土地は地底水に關係を及ぼしますから、飮用の出來ない場合があります、それから地底水の性質を變ずるものは、有機物質ばかりでは無くて、無機物質も關係するものであります、又有機物を多く含んで居る土地では、其分解作用が盛んでありますから、それが爲めに瓦斯が出來まして、此瓦斯は空氣の中に這入つて來ますから空氣を不潔にいたします。

前に水の御話しを致しました時に、地底水の事は申し述べて置きましたが、茲で又復地底水の事を少しく申し上げて置きます。

そこで地底水といふのは何の事であるかと申しますると、地中に這入つた水が、次第に下の方に浸入しまして、遂に水の通過する事の出來ない地層の上に來て、茲に集まつた水の事を地底水と申すのであります、それでありますから、地底水といふものは一層の事もありまするし、又二層三層或は五層位になつて相重なつて居る事もあります、地底水といふものは、土地の形狀に依りて、一定の方向に流動するものでありますから、ツマリ地下の河と謂つて宜しい、地底水の表面は、土地の表面とは平行するものでありませぬからして、土地の表面から、地底水迄への距離は、場所に依つて相違があります、地底水が時としては、地層を破つて、土地の上へ出て來る事があります、彼の泉は即ち是れであります、ズット深い層から地上へ顯はるゝ時には噴水を形成する事があります、是れは深層の地底水は壓力を蒙むる事が大きいからであります、さて地底水といふのは

大略上に申し述べましたやうなものを言ふのでありますが、然らば地底水となるものは何であるかと申しますと、是れは主に雨水であります、即ち雨が降つて地上に落ち、是れが段々と土地の中に浸入して地底水となるのであります、そうして其量は土地の構造、傾き具合、それから溫度と空氣の濕度とに依つて大なる差異を來すものであります、それで土地が平らであつて、其土地を構成して居る顆粒が大きくて、溫度が低くて、空氣が濕潤して居れば、雨水は多量に地底水になる事が出來ます、併しながら之れと反對に、土地が傾いて居て、顆粒が小くて、空氣が乾燥して居れば、雨水は多くは土地の表面を流れまして、他の方へ逃げて行きまして、其間に土中に入らずして、蒸發しますからして、地の中に浸入して、地底水となる量が大變に尠くなつて來ます、前にも申しましたやうに地底水といふものは、一方から他方へ向けて流れるものでありますが、其流れる速さは、其土地の顆粒の大小と地層の傾き具合とに依つて定まるものであります、地上に落ちた雨水が地下に浸み込んで、地底水に達するには、非常に時間の掛るものであります、是れは水が地層の中を通過する間に地層に吸收せられるからであります、そこで地底水の上の方にある地層を三つに區別致しまして、第一を蒸發層と言ひ第二を通過層と唱へ第三を毛細管層と名けて居ります、蒸發層と申しますのは、土地の表面の事を言ふのでありまして、此土地の表面では水は日光や空氣の作用で蒸發します、それ故に蒸發層と申します。

通過層と言ふのは、蒸發作用即ち日光や空氣の作用の及ばない層の事を言ふのであります、茲では水は少しも蒸發しませぬから、茲に多く溜つた水は皆下の方に行きまして、地底水に入り込みます。

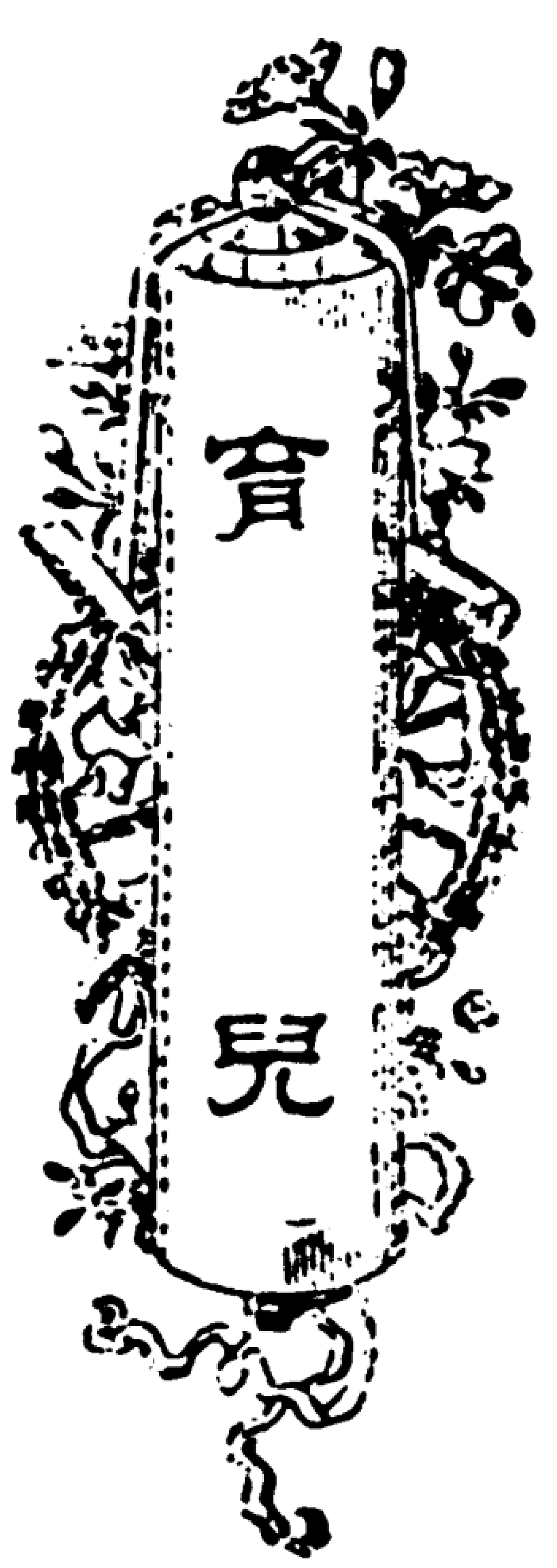
それから毛細管層と申しますのは、毛細管引力の爲めに、地底水が吸ひ上げられた層を指すのであります。

それでありますからして、土地の上へ落ちた水が地

底水に達する迄には長い時間がかゝります、また上層が乾燥して居ります時に雨が降ると水は多く此上層の土地の中に吸收せられまして、次に蒸發しますからして、下に降つて地底水となる事が出來ませぬ、また土地を構成して居ります所の顆粒が小さいと、水が地底水になる事が困難であります、それから前にも申し述べましたやうに、土地には自淨作用といふものがありますからして、水が土地の各層にある間に、其中に含まれてある物質は、漸次に分解せられますから、地底水に達する迄には大變に清潔な水になります。それから土地を通過する間に。水中の黴菌や塵埃は土地の爲めに濾されて了いますから地底水に達する時には、斯ういふやうな不潔物質を含んで居なくなります、それてありますから通常地底水といふものは、清淨なものでありまして、有害物質や黴菌抔を含む事は至て尠うあります。

それで地底水といふものは衞生上どういふ關係を持つて居るものであるかと申しまするに、地底水が表面に近い所では土地を濕潤にするものでありますから、斯ういふ所に建てた家に住んで居ると、リウマチスとか感冒とかいふやうな病に罹り易うあります。

以上大體土地の御話しを致しましたから　此位にして置きまして次に家屋の事を述べませう。（以下次號）



小兒の發育（續き）

S N 生 君

（三）小兒の食物

小兒既に此世の中に生れ出て、此世の風に吹かれた以上は、或意味に於て一人前の人間なれば、吾人と同じく食物が必要であります、小兒が生れ出れば發

育を受けるものだと云ふことは、旣に生れる前からの約束であります、扨てその食物は何んであるかと云へば云ふ迄もない母の乳であります。

然かし此乳を如何に與へるかと云ふことは育兒上頗る重要の問題であります。

日本でも西洋でも小兒が生れて初湯がすむと、直ぐに何か飲ませるといふ習慣がある。日本では「マクリ」或は揩粉を湯に溶て飲ませる、西洋では砂糖湯などを飲ませる所がある。之は實に惡習慣で何年昔から始まつたと云ふことは知りませんが、小兒の胃病を引起す源となるものであります。その外日本でも西洋でも乳母とか保母とか云ふものは、無敎育のものが多い故、小兒が泣けば又砂糖水など與へて一時之を慰める。」かくして小兒の小さい柔かい胃は不相當の重荷の爲めに苦められて眞の胃病となることが少くありません。ドクトル ジヨンソンと云ふ人は次の如く云ふてゐます。「我が多くの經驗によれば小兒時代の暴食 或は刺戟性の食物、或は多量の砂糖水を飲だ爲めに後年成長の後に非常の飲酒家と成た者が實に少くない」と實に愼むべきであります。

初湯後數時間を經過すれば乳房を含ませてよい、小兒の初めの食物は母の乳に越すものはない、慈母の愛情の溢れて柔かくふくれた乳房から流れて出る溫かい乳程小兒の食物に適當したものはありません。初湯が濟でから四時間毎に乳房を含ませるのが通例で、たとへ乳と云ふ程のものが出なくとも、水の樣に溥い乳でも生れたばかりの小さい胃の慾望を滿たすには充分であります、かくて乳房を含ませると小兒は自然にその乳を吸ふことを心得て、乳は又吸はれるに從て次第々々とよく出る樣になります。

哺乳の最初に於て何が最も危險かと云へば、餘り多量に乳を與へすぎると云ふことであります。一日に何回乳房を含ますべきかと云ふに、多くの學者は二時間毎に與へて可いと申ておりますが、之は少し多過ぎはしまいかと思はれます。

睡眠中は決して哺乳させてはなりません。言換ふれ

ば睡眠せる小兒に乳を與へる時間が來たからとて、之を呼び起して乳を與へてはならないと云ふことは、動かすべからざる規則であります。何となれば小兒が熟睡するのは胃に少しも食物の不足を感じてゐないからで、若し少しでも要求する所があれば直に醒めて求めるからであります。嘗て北米ニョーク、ロチェスターと云ふ街にある孤兒院に、小兒コレラの流行した事が有りまして、その時に其局に當てゐる醫師は日中三時間毎に哺乳し、夜間は斷然哺乳せざることにし、極めて規則正しく此規定を勵行したことがありましたが、その以後一人の死亡者なく、病める小兒も皆忽ちに元氣を恢復したと云ふことであります。規則正しき食事が如何に必要で且つ有益であるかは、此一事でも既に明かな事であります。」爾來其醫師は今迄自から與へ來りし食物の多過たことを悟り漸々減じて遂には二十四時間に只三度哺乳することにした。之で何の障害も認なかつたと云ふことであります。然かし之は小兒が無害なく成長し得る最低度であり、且つ又孤兒院の樣な規則嚴守の必要のある所に於てのみ行はれ得ることであります。若し通常の家庭でこんなことをすれば小兒は空腹を訴へて泣き、家の人も隣の人もやかましくて隨分迷惑に感ずるのであります。小兒は餘り泣かせずに、且衞生上の誤なく養育するのが吾人の願であまりす。」

兎に角吾人の考では夜の九時から朝の五時迄は乳を飲ませないのがよいと思ひます。時には隨分夜中に泣たりして父母の安眠を妨害することもありましやうが、之は小兒の爲めに忍ばねばなりません。

以上申上げた哺乳の度數は勿論只一般の規則で、時に應じ時に臨みて色々調節せねばなりません。例へば小兒が餘り泣て何となく不安の樣子の見ゆるのは、飲み過ぎたのか或は不足なる兆候であります。此場合に於ては哺乳の度數を増すとか或は減ずるとか、臨機應變の處置を必要とします。

若し規則正しく哺乳してゐるにも拘らず、小兒が乳房を含む時に非常に急ぎ込んで不穩の狀があるなら

ば、之は哺乳過多の爲めに生ずる不消化が起てゐると察して差支ない。消化不良といふ病は獨り成長して不消化物を食して起るものと限らず、小兒には不規則の哺乳或は多量の哺乳によりて起るものであります。然かも小兒の時の此病は特に恐るべきものがあります。初生兒の胃の容量は甚だ僅なもので、只二「ヲンス」の乳を容れ得るのみであります。」然かしそれとても充分に入るれば三「ヲンス」入れ得ると云ふ迄の事て、實際は二「オンス」入れて胃を充實させる事は宜しくない、必ず最大容量よりも少量に入れておかねばなりません。一度に入れる量は一「ヲンス」半を越へてはならぬと思ます。若し此量を超過して充實させた時はどうなるかと云へば、胃はその伸縮自在の能力を失ひ、小兒は何となく不快不穩の狀を呈し、遂に折角飲だ乳を吐き出して仕舞ます。小兒生れて最初一週の間は、能く食し能く眠りて割合に世話の燒けない時でありますから、此時に充分に規則正しく哺乳する良習慣を、母の方にも小兒の方にも付けるのが良い。若し不幸にして母の乳が不足であるか或は全く出ない時には事情の許す限り他より乳母を雇ふのが好い。牛乳その他人工的の營養物ては種々な不便が出て來るのであります。即ち若し牛乳のみて養ふとすれば

一、哺乳中一定の溫度であることを得ず、小兒が吸ふてゐる間に漸々溫度が下て來る。

二、種々な病原菌の消毒をせねばならぬ。

三、母の乳房から直接に吸ふことを得ず。

四、化學的の成分に多少相違あり、從て多少不消化たることを免れない。例へば蛋白質の凝固も人の乳よりは少し大なる塊となり、又脂肪の球も大きく、從て胃液が充分にその中に浸入するに多少の困難があつて、不消化たることを免れない。之等不便の中一三、四、は如何ともするとが出來ぬが、二は人工的にその不備を補ふことが出來る。即ち牛乳を煮ればよい、然かし餘り強く煮ると（攝氏百二十度）乳の質が變化して營養が乏しくなる。且つ病原

菌を殺すだけの目的なら、そんなに強く熱する必要はない、七十度位に熱すれば充分ですそれは、通常日本の煮物の如く鍋に入れて沸騰させればよいので且又食物としてはかく調理したものが一番性質の變化なくてよいのです。只一つ困ることには夏期に於ては只七十度位に煮たのみでは、少し冷ると又直に黴菌が侵入して腐敗する恐があります。此時には特別の煮沸器がありますから之で九十度位に煮るのです。

兎に角前に申上げた通り人の乳が最も上等の食物で、出來ることなら乳母を雇ふに限りますが、若し強て不都合の場合には止を得ず人工的營養で育てるのであります。その時こそは尚一層母の注意は六ケ敷なり、母の任務は益々重大となるのです。先づ最も注意すべき條件は

一、人工營養に適當な品質を撰ぶこと、

二、餘りに屢々與へたり且又不當の量に與ふのを愼むべきこと、

三、酸味、澁味のあるものを與へぬこと、

四、器具の不潔より病原をなすことあれば注意すべきこと、

五、保母をよく監督して以上の不注意ながらしむること、

であります。

然らば小兒の食量として何が最も乳に次て適當であるかと云へば、之は牛乳であると云ふことに多くの人が一致しております。第一價の點に於て、又得易い點に於て、又その成分が人の乳に甚だ近い點に於て最も適當であります。只前にも申した通り蛋白質も少し多く、且つ大なる塊に凝固すること、脂肪の球も大且つ多いこと故、初生兒に與へるには稀薄にせねばなりません。それは始めは凡そ水三倍を加へて之に少しの砂糖を加へて飮ませる。之より漸次に水の量を減し、牛乳の量を増し、小兒四ケ月になる時に水と牛乳とが丁度半々になる迄にする。」水を少しも混ぜぬ純粹の牛乳のみでは一ケ年以内の小

兒の胃には堪へきれないだろうと思はれます。それ故丁度誕生日の過ぐる迄に、牛乳のみとなる様に少しづゝ水を減じて行くのです。

生後六週間以内の小兒の胃には一、五「ヲンス」、三ヶ月のには二、五「ヲンス」、又四ヶ月から十ヶ月のには凡そ四、五から五「ヲンス」より多く一度に與へてはなりません。

その他小兒の様子は晝夜注視して、若し食後直に嘔吐するならば、恐らく飲過ぎたのであらうと察すべきてあります。又折々身體の目方を量りて漸次減ずる傾あらば、直にその處置をなすべく、又その他の兆候を注視してその時々相應の處置に出る様にすべきてあります。牛乳を飲ませる瓶は清潔に保たねばなりません。成るべく二つ用意し其に吸口を付けておき、一ッ用ゐてゐる間は他の一ッは重炭酸「ソーダ」の溶液に漬ておく様にすれば安全です、「ソーダ」水は殺菌の効がある者であります。

次に一言したい事は母の榮養て、母は病氣になると特に脚氣の如き病氣になると、その乳て養はれた小兒は屢々下痢その他の恐るべき病を起しますから、母の身體を常に健全に保つことは育兒上缺くべからざる必要條件であります。母の身體を健全に保つ爲めには母の營養をよくせねばなりません。營養惡しければ乳の出る量が減じ、質も粗惡になります。又母の心理上の關係も甚だ必用です、母の心に憂苦が充つれば乳にも變化を來すものであります。要するに、小兒の健康は新鮮なる空氣及び健全なる精神、健全なる身體を有する母の乳房より流れ出づるのであります。

○前號(謬誤)掲載の眼鏡の話の中十八頁上段二行より五行迄を左の如く是正す

眼鏡の玉を製へる材料は、普通の硝子「クロオン」硝子、「フリント」硝子水晶等てあります、就中「フリント」硝子が一番宜しいか、其性質少し柔軟過ぎますから、精製した「クロオン」硝子を上等物と致します、



質疑

問・私事面部に脂肪多き爲めか時々にきびが出來て困ります、或る雜誌に日頃加里石鹼を用ゆれば全治すると有りました故早速一瓶求めて朝夕少しつゝ用ひまして一週間に成りますが更に其効みえず却て細いふきでが出て皮膚がザラ〱致して參りました何うした譯で御座いませうか他に面皰が全治して皮膚のなめらかになる療法の御敎示を御願ひ申上げます

一會員某

答・面皰は脂腺口の閉塞に由つて生ずるものであります故に皮膚不潔にして皮脂腺口を閉塞し、又は春機發動期に於て皮脂腺の分泌增多するの際或る障害に由つて其の排泄を妨ぐるに基因するものでありますが、さて其の療法は種々あるけれども中々容易には癒らぬのが普通てあります、先づ淸潔なる兩拇指爪甲を以て側壓を加へ面皰小栓を壓出すべく、加里石鹼精を用ひて洗ひ或は二プロセントのレゾルチン軟膏、亞鉛華軟膏等を塗擦するも可し、又は左の合劑を試みらるゝも宜いのです。

カオリン	三瓦
グリスリン	三瓦
常醋	一瓦
薔薇油	一滴

右一日二三回塗擦すべし

藥物は極めて正良純粹のものを用ひざれば不良異物混在の結果として却て皮膚を粗糙ならしめ或は發疹を來すことがありますから注意せんければならぬ、洗面料として一番良いのは彼の糠湯てあります粗惡なる石鹼は大いに禁物てある、若し使用するならば硼酸石鹼がよいのてす、然し一應診した上ならでは如何なる方法か適當てあるかを斷言する事が出來ません、にきびは特に婦人にありては容貌の美を損する事少なからぬのてありますから右樣の療法に依て數日効驗を見る事が出來なかつたならば一度專門家に診療を仰ぐの優れるに如かぬのてあります



雜報

○慈惠會醫院行啓

皇后陛下には豫て仰出されし如く十月廿四日午後一時卅分御出門高倉典侍御陪乘、香川皇后宮大夫、山内同亮、岩佐侍醫、小池掌侍、吉田權掌侍、生源寺權命婦、供奉の上同二時慈惠會醫院に着御和成りたり同會にては前日來奉迎の設備怠なく整ひ正門には大なる國旗を交叉し御車寄には、紫縮緬の幔幕に白の絹房を垂し門内より御車寄の道路には白砂を布詰め其の左右兩側には各理事各顧問德川會長澁澤副會長、高木醫院長、實吉同次長等整列御奉迎申上玉車の正に門内に入せらるゝや君が代の奏樂靜肅に響き渡り　陛下には奉迎の諸員に御會釋を賜り御車寄階上にて總裁有栖川宮妃慰子殿下及び名譽會員閑院宮妃智惠子、東伏見宮妃周子、久邇宮妃俔子、梨本宮妃伊都子各殿下御奉迎、德川會長、有栖川總裁宮殿下の御先導にて樓上の便殿に入御同所にて御休憩中、總裁宮、名譽會員の各殿下御侍立の上、前記會長、副會長、醫院長、醫院次長、商議醫員、理事、評議員數十名に拜謁仰付けられ終つて德川會長、有栖川總裁宮殿下、御先導閑院宮東伏見宮、久邇宮、梨本宮各妃殿下及供奉員扈從の上式場に臨御、德川會長は香川皇后宮大夫を經て本年五月廿一日東京慈惠醫院を改めて慈惠會を組織せし以來の會務報告書を捧呈し更に左の要項につき言上する處ありたり

一會員の動靜及寄附金
一施療部收支決算及施療患者數
一資本部收支決算

右終るや忝くも　陛下には御椅子を起たせられ玉音朗はしく令旨を賜はり有栖川總裁宮殿下には御前に進みて令旨を拜受し數步御退席直に奉答文の御朗讀あり右にて式を終へ諸員敬禮中に　陛下には德川會

長、高木醫院長の御先導に依り再び便殿に入御御休憩中に高倉典侍、生源寺權命婦兩女官及岩佐侍醫を患者收容所に御差遣相成り患者の實況を御尋ねありたり尚兒童患者のためには種々の玩具品を御下賜相成り同四時御氣色麗はしく還御仰出され諸員は奉迎の時に同じく奏樂中に謹んで御奉送申上げ奉れり

○同仁會第三回大會

同仁會にては去る九日午後二時より早稻田大隈伯邸内に於て第三回大會を開き、鍋島侯後藤男等を始め貴衆兩院議員醫事衞生に關係ある諸氏數百名の來賓の外會長大隈伯及役員以下各種會員を併せて無慮數千人の出席ありたればサシモに廣き同邸内も殆んど人を以て埋めらるゝ盛況なりしが軈て定刻に至り理事岡田醫學博士の開會の辭に次て副會長丹波藥學博士の事業報告後藤節藏氏の會計報告後會長大隈伯起て我國民の文明を表彰する世界的事業の一として亦東洋永遠の平和の爲に清國を開發するの事業として同仁會の如き慈善的敎育的事業の發達の最も喜ぶべき者なる旨を述べて挨拶を爲し次て西園寺首相(代)原内相(代)牧野文相(代)李清國公使(代)鍋島侯(東亞同文會長)黑田侯後藤男尾崎市長(代)等の祝詞朗讀あり鍋島侯の發聲にて天皇陛下の萬歲を三唱し式を終り夫より園遊會に移り大神樂齋藤歌妓の舞踏其他の餘興ありて四時頃散會せられたり

○麥酒の持續過飲の害

國家醫學會の臨時講話は去月廿九日午後一時より東京帝國大學醫科大學法醫學敎室にて行ひたるがドクトル富士川游氏は「醫人道義學」を續演せられ、其中新歸朝者醫學士北村徐雲氏は「麥酒の持續的過飲に因する肺動脈硬變に就て」と題して講述したる其大意は「麥酒を最も多く醸造するは米國で其次は獨、澳、英、佛と云ふ順序である、獨逸では小供も婦人もガブガブ盛に麥酒を飲むから其消費高は世界第一だらうと思ひしに實際は英國が一番で是に亞は獨、米、佛である、日本では近來麥酒を飲む事も醸造す

る事も甚だ多くなつたが餘り多く飲み續けると害があるから注意しなくてはならない特に日本製の麥酒は酒精分子が多い一番少いと云ふ札幌麥酒ですら三、八四九て朝日麥酒の如きは五、〇八五の酒精を含有して居る、所が獨逸邊の麥酒は大概三、四六〇位のもので加ふるに幾分かの營養分子も含まれて居るけれども矢張り澤山飲み續けると害がある、然らば如何なる害があるかと云ふに先第一にプレトーラ（多血）となり動脈を硬變して遂には心臟の衰弱を來して死に至らしむるのである、私が獨逸で實驗したのは料理店の酒注男の卅三歳になる者で此男は毎日約五合入の大コップに三十杯宛飲來つた結果心臟衰弱症に罹り入院して治療を受たが遂に死去したのて解剖をして見ると夛く麥酒持續的過飲の結果てあつた、夫れは各血管に細胞が頗る多くなると共に游黑い血が非常に増し特に血管の分岐點の血液が常に激く接觸する處は少しく高くなつて黃白色を帶て居る又心臟はプレトーラの作用て大くなり其肉を切ると石灰色を呈して居る其他には何等の異狀もなく死すべき程の病原は認められなかつたので十分證明されたのである、で麥酒を多量に飲めば肥滿するは事實て件の男も丈は左程高くなかつたが横巾は非常に廣く體量廿九貫六百四十五匁許りあつた、要するに麥酒を毎日澤山飲めば心臟を擴大ならしめ衰弱を起して遂に頓死するを免がれないのである」云々

○日本兒童研究會

去月廿七日午後一時神田一ツ橋帝國教育會に於て日本兒童研究會の第一回總會あり元良博士、ドクトル富士川游、高島平三郎、醫學士三宅鑛一、同石川貞吉、中村五六諸氏の講話ありたるが聽衆は無慮三百餘名許りあり二十名餘の婦人をも見受られ頗る盛會にて同五時頃散會したり其中高島平三郎氏の「生後一年」と題せる講演の概要は、嬰兒が生れて第一に感ずるは不安、第二は身體の刺戟、第三は倦厭にておぎやあおぎやあと泣くは即ち其表象なり笑ふ樣になるは四五十日後に手足にを動かすに至るは半年

後、味覺は嬰兒の感覺中尤も鋭敏なるものなれば未覺を害し不快を感ぜしめぬ樣にせざる時は長じて性質が旋毛曲りになるべしクスマール氏が小兒五十人に就て臭覺を檢せしに惡臭は皆厭がりたりペレー氏の嬰兒は生後二週間目に至りて頻りに保姆を嫌ひ出したるより取調べると保姆が一種の腋臭あるを發見したりとのとスペンサーが心の起りは觸覺なりと言ひし如く觸覺は嬰兒にありて尤も樞要なる感覺なるが自他及び寒暑の區別は皆之に依て知るなり又嬰兒は甚しく寒さを嫌ふものにて母の懷中に抱かるゝを悅ぶは必ずしも母を懷かしがる情愛あるにはあらずして其體溫を悅ぶのみ聽覺は生れし當時は聾にて三四週間後に至りて始めて音響を聽取するを得るに至りブラワン氏の實驗談に依れば生後六週間の嬰兒はピヤノの音を聴き分け其音響の如何に連れて能く自由に悲喜する由なるがゴールドウエン氏の嬰兒が生後六ケ月半頃暫く田舍に歸り居たる保姆を見忘れたるも保姆が豫て謠ひ慣れたる子守唄を例の節面白く謠ひ出すに至り始めて自分の保姆なることを思出し嬉しげに抱附たりと云ふ話もあり視覺は初めは見えず後稍や見得るに至るも猶ほ近視にて一年後に至らざれば色の區別をなす能はず詩人は嬰兒が無意識に高く碧空を見上ぐるを开は渠の靈魂が其故鄕なる天を思慕するが故なりと言へど生後六ケ月後にならねば母の顏さへ分らぬなり斯て生後十五週間後になると頭を眞直に起し二十週間目には體を眞直に起し四五十週間目には坐るやうに又腰を懸ける樣になり五十週間後に始めて起て歩く樣になるなり是等は皆意志の働きて斯樣に發達するものなり云々と

○長壽の仙鄕

元肥前の島原藩は由來長命の地とて有名なるが最近の調査によれば島原郡内の各町村に於ける八十歲以上の長壽を保てる男女は實に千四百二十七名の多數に及び內滿九十歲の男女四十六名にして內百歲以上の高齢者は正に十九名に上れりとは實に目出度き仙境と云ふべし、其の人名は左の如し

郡名	齢	姓名
島原	百八歳	佐久間くら
同	百六歳	岩代惠藏
同	百一歳	上田みえ
同	百三歳	菅原圓左
南有馬	百十四歳五ヶ月	栗原たき
同	百二歳四ヶ月	江島かれ
同	百五歳	佐藤市太郎
北有馬	百十五歳八ヶ月	井村太郎
同	百十一歳	山村たみ
同	百四歳	近藤なを
同	百二歳	陣川きく
同	百歳六ヶ月	佐藤兵吉
同	百二歳	大島喜作
西有馬	百二歳九ヶ月	江越嘉平治
同	百二歳三ヶ月	草野すま
同	百二歳三ヶ月	城川とら
同	百二歳	相川ます
布津	百二歳四ヶ月	小林きな
南串	百一歳七ヶ月	内平とら

大日本婦人衛生會記事

○本會十一月例會

本月二日（土曜日）午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校内にて開會、先づ横手博士は「衣服の危險」てふ題にて衣服の汚れ方は其人の體質と勞働の如何に由て異なり又木綿と毛織物とに就て臭氣を吸收する度の強弱を比較せられ且つ日本人の上衣は淸淨なるも下着は概して汚なく、日本人は入浴は好きなれども西洋人は嫌ひなり、されど西洋人は肌着下衣等は日々湯に入れて淸潔にすれども之に反して日本人は此事少なり、其他不潔分子の皮膚表皮細胞に及ぼす關係と一二の例を擧げて黴菌の大に恐るべきを說き、衛生學上の見地より古着等の消毒を忽せにすべからざる所以を懇切に講話せられたり、次に富士川ドクトルの演題は前々よりの續き「人體及其保護」にて先づ人體の養素たる血液より心臟、血管、五臟六腑に說き及ぼし凡そ血液の三分の二は水である、血液も半分迄の出血なれば又營養物の供給宜しきを得ば恢復するを得べけれども、已に其の三分の二以上の失血にありては到底之を救助するの途なし云云」と毎時興味ある講話にてありしが同四時半過

る頃閉會せり、傍聽者無慮二百餘名にて盛會なりき、當日出席せられし役員は左の如し

鍋島會長、濱尾副會長、高木、鳩山、松平、羽田、岡田の五幹事、諸方、田村、長谷川、岡山の四評議員等なりし

新潟支會

○十月例會

去月廿七日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て當市婦人教育會と聯合の上開會、出席者約五十餘名にして講師及演題は左の如し

一先天梅毒の話　醫學士　工藤秀一郎君

○本會入會者

○事務所申込

●牛込區神樂町二ノ十七　通常會員　關谷いま子

●富山縣氷見町大字御座町二九　通常會員　上庄とみ子

●臺灣恒春廳官舍　通常會員　小山榮枝子

●三重縣一志郡豐田村川北　通常會員　村井豐子

○小川氏紹介

●牛込區西五軒町十八　通常會員　柴田れん子

○原胤昭君紹介

●牛込區市ケ谷仲町十四　通常會員　大森百合子

●芝區高輪南町四七　通常會員　山本きぬ子

○横井忠國君紹介

●臺灣臺南衛戍病院　通常會員　土肥原喜保子

●臺南衛戍病院鳳山分院　通常會員　近岡千代の子

●同　通常會員　金たま子

○米澤支會入會者

●米澤市　甲種　矢島みや子

●米澤市　乙種　平さの子

○新潟支會入會者

○荒川てい子紹介

●新潟市　特別會員　內山みた子

○米澤支會會員資格變更

●甲種ニ改ム　特別會員　渡邊みか子

○轉居

●本所區向島須崎町一二九へ　島山やえ子

●府下南品川二三六山本方へ　西村きせ子

●府品市平塚町一二九へ　深井てる子

●日本橋區濱町一ノ十二へ　岡田みえ子

●千住、日本皮革株式會社々宅へ　野口かう子

●德島縣撫養町へ　加藤羅子

●函館區宮柳町十六へ　藤野くら子

●松山市二番町十一へ　平田久子

●福井市江戸下町役町五五へ　諏訪幾久子

●佐世保市木場田町一五三へ　芳賀喜多子

●日本橋區本銀町一ノ八玉孫方　小野かれ子

●宇都宮市四條町九三へ（益久田）　高橋愛子

●府下四大久保村字北班九五へ　太田えゝ子

●下谷區車坂町六二へ　小澤てつ子

●小石川區女子大學成生寮へ　大岡つたえ子

●牛込區納戸町三一へ　青戸さく子

●麹町區元園町一ノ六へ　田中かま子

●赤坂區青山北町三ノ四八へ　玉利のぶ子

私立大日本婦人衞生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の
健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會
全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衞
生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三
條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て
組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及
び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●
第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師
又は篤志賛助員となす●第六條當會員にして轉居死亡又は退會の
時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に 左の役員を
置く會長一名副 會長一名幹事六名評議員十二名●第八條役員は會
員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役
員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし 再撰するを得
●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會
は每月一回講話會を開き 每年一回總會を開く者とす總會に於ては
講話の外役員の改撰 會務の報告等をなす●第十一條會員及賛成員
の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により 男子の
參列は謝絕することあるべし ●第十二條本會々員は本會費の外別
に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を
出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを
例とす但三ヶ月分以上宛前納すべし ●第十四條支會の所有金は支
會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員
外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の
金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものと
す●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實
に履行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を
準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組
織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置
く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す 役員の任期は
一ヶ年とす●第三條 本支會は每月一回（第一日曜日）講話會を開き
每年一回（五月）總會を開き 講話の外役員の撰舉庶務會計の報告を
なす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第九條の通り
會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は
其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但
し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月
迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着
及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條
本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク 會長副
會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年
トス●第參條 每月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ每年五月講話ノ
外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス ●第四條入會ハ宿所姓名ニ第
五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベ
シ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆
出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時
ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十
二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會
會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席
ノ節ハ成ルベク家族又タハ和合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●
第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス 上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁
ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を忽まざる可らず之を望んとするには必ずや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に倣じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之が當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徴章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす。終身會員は一時に廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるとも男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●每會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●玆に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地　茨城支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衞生會徽章規程

第一條　大日本婦人衞生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾貳錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黑筋箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會并に支會の集會に出席する場合は勿論禁止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁貳圓七拾五錢四分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衞生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

東京市下谷區谷中町五番地
編輯兼發行者　齋藤清之丞

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

明治四十年十一月十六日印刷
明治四十年十一月二十日發行（毎月一回二十日發行）